

上田市文化財調査報告書第74集

八幡裏遺跡Ⅳ

市道緑が丘1-3・1-4号線道路改良工事に伴う八幡裏遺跡群第4次発掘調査報告書

1999年3月

上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書第74集

八幡裏遺跡Ⅳ

市道緑が丘1-3・1-4号線道路改良工事に伴う八幡裏遺跡群第4次発掘調査報告書

1999年3月

上田市教育委員会

序

国立長野病院は、国立東信病院と国立長野病院（上山田町）が統合されて平成9年7月1日に開院しました。新病院は、最先端の高度救急医療にも対応した県内最大規模の病院で、地域の中核医療施設として活躍が期待されています。

本書は、新病院の南口連絡道路として計画された市道緑が丘1-3・1-4号線の道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書です。この道路は、市街地方面から新病院への正面道路として計画されたもので、歩道の幅を広く確保し、植栽や街路灯を多く配置するなど、病院を訪れる人や地域の人たちに安らぎを与え、憩いの場となるように配慮されています。

一方、国立長野病院とその周辺には、埋蔵文化財八幡裏遺跡群が所在しています。病院の建設に先立つ発掘調査では、縄文時代から平安時代にいたる住居址や墓塚などが多数確認され、上田市の原始古代を研究する上で欠かすことのできない重要な遺跡であることが明らかになりました。今回の発掘調査でも、古墳時代から平安時代にいたる住居址群が確認され、古墳時代後期の住居址からは、標識資料となりうる良好な土器が多数出土するなど大きな成果を収めることができました。

埋蔵文化財は、地下に残された先人たちの生活の跡で、個々の遺跡や遺物には決して同じものではなく、一度破壊された遺跡は二度と復元できません。埋蔵文化財の保護と開発事業の両立は非常に難しい問題となっていますが、先人から継承した大地をより良い姿で後世に残していくために、最大限の努力を傾注する姿勢が双方に求められています。

本報告書の刊行にあたり、計画段階から報告書刊行にいたるまでの間、多大なる御指導と御協力を賜りました関係諸機関と調査関係者の皆様に衷心より御礼を申し上げさせていただきます。

平成11年3月

上田市教育委員会教育長 我妻忠夫

例 言

- 1 本書は、長野県上田市大字上田字八幡裏と字思川（住居表示：上田市緑が丘一丁目）に所在する八幡裏遺跡群の第4次発掘調査報告書である。
- 2 調査は市道緑が丘1-3・1-4号線の道路改良工事に先立ち、上田市単独事業として行った。また、調査及び調査に係る事務は上田市教育委員会事務局社会教育課（機構改革により平成9年度から文化課）が実施した。
- 3 現地調査は、平成8(1996)年12月2日から平成9(1997)年1月28日にかけて実施し、整理・報告書作成作業は平成8・10年度に行った。
- 4 遺構の実測は、中沢徳士、塩崎幸夫、久保田浩、西沢和浩、清水彰が行ったほか、空中写真測量・図化を新日本航業株式会社（小諸市）に委託して行った。
- 5 整理・報告書作成作業は、塩崎の指示により饗場奈那江、井沢光子、石合好江、市村みつ子、大井敬子、田村まり子、丸田由紀子、山本万里が行った。
- 6 本書に使用した遺構写真は、中沢、塩崎、西沢、清水が撮影し、航空写真は新日本航業株式会社が撮影した。また、遺物写真は塩崎が撮影した。
- 7 本書の執筆は、塩崎が行った。
- 8 本調査に関わる資料はすべて上田市教育委員会の責任下に保管されている。その際に用いる遺跡の略号は、「HMU-IV」である。
- 9 本書が上梓されるまでには、多くの方々や諸機関の御指導、御協力を賜った。以下、御芳名を記して深く感謝の意を表したい。

佐藤・東急・東信土建共同企業体・竹原重建株式会社・長野県教育委員会文化財保護課・
上田市都市整備部都市計画課

（順不同・敬称略）

凡 例

遺 構

- 1 遺構の略号は、次のとおりである。

竪穴住居址 (SB-)、土坑 (SK-)、ピット (P-)、竪穴住居址内のピット (P)
- 2 遺構実測図については、次のとおりである。
 - (1) 平面位置の表示は、平面直角座標第Ⅷ系を座標変換して表示した。
 - (2) 方位は、原則として第Ⅷ座標系の方眼北を頁の上とし、例外は方位で示した。
 - (3) 縮尺は、竪穴住居址・土坑・ピット (1/60)、竈 (1/30) である。
 - (4) 水系レベルに記した数値は、標高 (単位:m) を示す。
 - (5) 平面図における網点は、焼土を表す。
- 3 遺構一覧表については、次のとおりである。
 - (1) 規模の単位は、m である。
 - (2) 数値欄の () は推定値、〈 〉 は調査範囲である。
 - (3) 竪穴住居址の主軸方向は、竈を有する壁に直交する軸線を主軸とし、竈が検出されなかった住居址は長軸もしくは竈の位置する壁を推定して、第Ⅷ座標系の方眼北との角度で示した。
 - (4) 竪穴住居址の壁高、土坑・ピットの深さは、検出面からの深さを示した。ただし、住居址内の周溝及びピットの深さは、住居址床面からの深さを示した。
- 4 土層の色調は、『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修 1988 及び 1990) に準拠した。
- 5 遺構写真の縮尺は、任意である。

遺 物

- 1 遺物実測図については、次のとおりである。
 - (1) 縮尺は 1/3 である。
 - (2) 土器の断面は、縄文土器・土師器は白抜き、須恵器は黒塗り、灰釉陶器は網点とした。
 - (3) 器面の網点は、黒色処理を施した範囲を表す。
- 2 遺物観察表については、次のとおりである。
 - (1) 法量欄の単位は、cm である。
 - (2) 法量欄の () は推定値、○ は丸底を示す。
 - (3) 土器の色調は、『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修 1988 及び 1990) に準拠した。
- 3 遺物写真の縮尺は、任意である。
- 4 遺構平面図、写真図版中の遺物番号は簡略化した (例第 31 図 10→31-10)。

目 次

序

例 言

凡 例

目 次

挿図目次

挿表目次

写真図版目次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の体制	1
第3節 調査日誌(抄)	2
第4節 調査の方法	3
第2章 遺跡の環境	5
第1節 自然的環境	5
第2節 歴史的環境	8
第3節 基本層序	12
第3章 調査の結果	13
第1節 調査の概要	13
第2節 遺 構	14
第3節 遺 物	35

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図 周辺遺跡位置図	6	第21図 ビット実測図(4)	30
第2図 基本層序模式図	12	第22図 第1号住居址出土遺物実測図	35
第3図 八幡裏遺跡IV位置図	14	第23図 第2号住居址出土遺物実測図(1)	35
第4図 遺構全体図	15	第24図 第2号住居址出土遺物実測図(2)	36
第5図 第1号住居址実測図	16	第25図 第2号住居址出土遺物実測図(3)	37
第6図 第2号住居址実測図	17	第26図 第5号住居址出土遺物実測図(1)	38
第7図 第4号住居址実測図	17	第27図 第5号住居址出土遺物実測図(2)	39
第8図 第7号住居址実測図	17	第28図 第5号住居址出土遺物実測図(3)	40
第9図 第5号住居址実測図	18	第29図 第7号住居址出土遺物実測図	41
第10図 第5号住居址竪穴実測図	19	第30図 第8号住居址出土遺物実測図(1)	42
第11図 第8号住居址実測図	20	第31図 第8号住居址出土遺物実測図(2)	43
第12図 第8号住居址竪穴実測図	21	第32図 第8号住居址出土遺物実測図(3)	44
第13図 第10号住居址実測図	22	第33図 第8号住居址出土遺物実測図(4)	45
第14図 第10号住居址竪穴実測図	23	第34図 第10号住居址出土遺物実測図(1)	45
第15図 第11号住居址実測図	24	第35図 第10号住居址出土遺物実測図(2)	46
第16図 第12号住居址実測図	25	第36図 第11号住居址出土遺物実測図	47
第17図 土坑実測図	26	第37図 第12号住居址出土遺物実測図	47
第18図 ビット実測図(1)	27	第38図 第1号土坑出土遺物実測図	48
第19図 ビット実測図(2)	28	第39図 遺構外出土遺物実測図	48
第20図 ビット実測図(3)	29		

挿 表 目 次

第1表 周辺遺跡一覧表	7	第9表 出土遺物観察表(3)	51
第2表 竪穴住居址一覧表(1)	31	第10表 出土遺物観察表(4)	52
第3表 竪穴住居址一覧表(2)	32	第11表 出土遺物観察表(5)	53
第4表 竪穴住居址一覧表(3)	33	第12表 出土遺物観察表(6)	54
第5表 土坑一覧表	34	第13表 出土遺物観察表(7)	55
第6表 ビット一覧表	34	第14表 出土遺物観察表(8)	56
第7表 出土遺物観察表(1)	49	第15表 出土遺物観察表(9)	57
第8表 出土遺物観察表(2)	50		

写真図版目次

図版1	八幡裏遺跡群航空写真	61
図版2	八幡裏遺跡群IV全体写真(北より)	62
図版3	八幡裏遺跡群IV全体写真(直上より)	63
図版4	第1号住居址(北東より)・第1号住居址編物石出土状況(北西より)・第4号住居址(西より)	64
図版5	第5号住居址(南より)・第5号住居址遺物出土状況(南より)・第7号住居址(南東より)	65
図版6	第8号住居址(南西より)・第8号住居址竈(南西より)・第8号住居址遺物出土状況(南西より)	66
図版7	第10号住居址(南東より)・第10号住居址竈(南東より)・第10号住居址遺物出土状況(南東より)	67
図版8	第11号住居址(南東より)・第12号住居址(南より)・調査風景(南より)	68
図版9	第1号土坑(南より)・第2号土坑(南より)・第3号土坑(南より)	69
図版10	第1号住居址出土遺物・第2号住居址出土遺物	70
図版11	第2号住居址出土遺物	71
図版12	第2号住居址出土遺物	72
図版13	第2号住居址出土遺物・第5号住居址出土遺物	73
図版14	第5号住居址出土遺物	74
図版15	第5号住居址出土遺物	75
図版16	第5号住居址出土遺物	76
図版17	第5号住居址出土遺物・第7号住居址出土遺物	77
図版18	第7号住居址出土遺物	78
図版19	第8号住居址出土遺物	79
図版20	第8号住居址出土遺物	80
図版21	第8号住居址出土遺物	81
図版22	第8号住居址出土遺物	82
図版23	第10号住居址出土遺物	83
図版24	第10号住居址出土遺物	84
図版25	第11号住居址出土遺物・第12号住居址出土遺物	85
図版26	第12号住居址出土遺物	86
図版27	遺構外出土遺物	87

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経過

八幡裏遺跡群は、上田市街地北方の黄金沢が形成した広大な扇状地上に所在している。この付近は、明治・大正期には一面の桑園が広がり上田の蚕糸業を支えていたが、蚕糸業の衰退や人口の増加に伴い宅地化が進み、市街地に隣接した良好な住宅地に姿を変えている。

八幡裏遺跡群が確認されたのは比較的古く、大正14年に行われた上田温泉電軌北東線建設の際に弥生時代中期の壺形土器が出土したことが初見であった。また、昭和27年に国立東信病院の病棟の改築工事に伴い、小規模ながら発掘調査が実施され、縄文時代の良好な遺跡が存在することが確認されており、周知の埋蔵文化財包蔵地として認知されている。

平成5年度以降、長野県住宅供給公社による県職員住宅の建設と、厚生省による国立長野病院の新築を契機として、八幡裏遺跡群は数次にわたる試掘調査と発掘調査が実施され、縄文～平安時代にわたる集落遺跡群であることが明らかとなった。

平成8年度、上田市都市整備部都市計画課により、国立長野病院の南口連絡道路として市道緑が丘1-3・1-4号線の道路改良工事が計画された。当該地は、国立長野病院新築に伴い大規模な発掘調査が実施された地点に隣接し、八幡裏遺跡群の範囲に含まれていることから、上田市教育委員会社会教育課が試掘調査を実施して、遺跡の存否を確認することになった。

試掘調査は、平成8年10月26日に実施され、地表下約2mにおいて古墳時代の竪穴住居地の一部と、縄文時代から古墳時代にかけての土器片が出土した（上田市教育委員会『市内遺跡VI』1997.3）。試掘調査の結果を受けて、再度協議を行った結果、歩道部分についてはインターロッキング舗装として遺跡の保存を図り、幅員7.5mの車道部分について記録保存を目的とした緊急発掘調査を実施することになった。

発掘調査は、上田市の単独事業として上田市教育委員会社会教育課が直営で実施した。現地での調査は平成8年12月2日に着手し、平成9年1月28日に終了した。

第2節 調査の体制

八幡裏遺跡群第4次発掘調査に係る調査の体制は以下のとおりである。調査事務は上田市教育委員会事務局社会教育課文化係（平成9年度より機構改革により文化課文化財係）が行った。

教育長	内藤 尚	(平成9年3月31日退任)
	我妻 忠夫	(平成9年4月1日着任)
教育次長	荒井 鉄雄	(平成9年3月31日退任)
	宮下 明彦	(平成9年4月1日着任)

社会教育課長	松 沢 征太郎	(平成9年3月31日退任)
文化課長	川 上 元	(平成9年4月1日着任)
文化財係長	岡 田 洋	(平成10年4月30日退任)
	細 川 修	(平成10年5月1日着任)
主 査	中 沢 徳 士	(総括担当者)
	尾 見 智 志	
	塩 崎 幸 夫	(担当者)
主 任	久保田 敦 子	
	久保田 浩	(担当者)
主 事	西 澤 和 浩	(担当者)
	山 寄 敦 子	(平成10年4月1日着任)
	清 水 彰	(担当者)
	小笠原 正	
嘱 託	望 月 貴 弘	(平成9年4月1日着任)
	古 野 明 子	(平成9年4月1日着任)
	松 野 ひろみ	(平成9年4月1日着任)
	須 齋 千恵子	(平成10年4月1日着任)

調査及び整理作業員 (敬称略・五十音順)

齋場奈那江、池田市郎、井沢光子、石合好江、市村みつ子、井部定雄、上原信晴、内山重利、大井敬子、小柳治雄、斉藤かな枝、坂口興昌、関谷甲子雄、田中正美、田村まり子、西沢志保、林 正治、林 一、東山唯夫、東山恒子、丸田由紀子、柳沢仁美、山本万里

第3節 調査日誌 (抄)

平成8(1996)年

- 12月2日(月) 機材搬入。電機による表土除去とともに遺構検出作業を開始する。
- 12月12日(水) 遺構の掘り上げを開始する。
- 12月16日(月) 基準点測量を実施する。
- 12月17日(火) 仮設覆屋(ビニールハウス)の設置を開始する。
- 12月18日(水) 調査グリッドの設定を開始する。
- 12月20日(金) 仮設覆屋設置終了。実測作業を開始する。
- 12月27日(金) 仕事納め。平成8年の作業を終了する。

平成9(1997)年

- 1月6日(月) 仕事始め。調査を再開する。
- 1月13日(月) 遺構掘り作業を終了。
- 1月21日(火) 遺構の実測作業を終了。
- 1月22日(水) 仮設覆屋を撤去する。
- 1月27日(月) 対空標識設置。
- 1月28日(火) RCヘリコプターによる測量用写真と全景写真の撮影を行う。機材撤収。現地調査を終了する。

以後、埋蔵文化財整理室において、遺物整理作業の一部を実施し、残りの整理、報告書作成作業は平成10年度に行った。平成11年3月25日に報告書が刊行され調査は終了した。

第4節 調査の方法

1 遺跡名

上田市の埋蔵文化財包蔵地分布調査が行われた昭和40年代後半には、本遺跡の周辺は既に宅地化が進行し、個々の遺跡の範囲を確認するのは困難な状況であった。分布調査報告書として昭和52年に刊行された上田市教育委員会『上田市の原始・古代文化』では、小字名に拠って思川遺跡、大星前遺跡、海善寺裏遺跡、新田遺跡、道祖神遺跡、八幡東遺跡、八幡裏遺跡等の遺跡名が与えられたものの、分布範囲は不明確な遺跡が多かった。

その後、埋蔵文化財分布地図を作成するにあたり、範囲の不明確な上記7遺跡を一括して範囲指定し、「八幡遺跡」と総称した(長野県教育委員会『長野県市町村遺跡分布地図』1977.3、上田市教育委員会『上田市文化財分布図』1979.12、文化庁文化財保護部『全国遺跡地図 長野県』1983.3、長野県史刊行会『長野県史 考古資料編(一) 遺跡地名表』1981.3)。

上田市教育委員会は、平成6(1994)年に長野県職員住宅建設工事に伴う発掘調査に臨み、「八幡遺跡」を「八幡裏遺跡」と改め(上田市教育委員会『市内遺跡Ⅲ』1994.3、上田市教育委員会ほか『八幡裏遺跡1』1995.3)以後、「八幡裏遺跡」の名称を周辺遺跡群の総称として用いている。

今回の第4次発掘調査に係る地域の大部分は、字八幡裏に所在し、調査された遺跡の内容も従来の調査地点とは異なる性格を有するものであった。従って本報告書では、混同を避けるために広義の「八幡裏遺跡」は「八幡裏遺跡群」として記述することとした。

なお、試掘調査の報告において「道祖神遺跡の範囲」との見解が述べられたが(上田市教育委員会『市内遺跡Ⅵ』1997.3)、『上田市の原始・古代文化』では、道祖神遺跡は東方の「大星前遺跡、海善寺裏遺跡」と一体的に把握してよからう。」と、山洋電機敷地内で東偏する可能性が示唆されており、

調査された遺構の所産期も道祖神遺跡とは合致しないことから、本書においては字名どおり狭義の「八幡裏遺跡」の範囲として捉えておきたい。

2 遺跡略号

各種の記録や遺物の注記等に用いる遺跡略号は、八幡裏 (HACHI-MAN-URA) の頭文字「HMU」と、第4次発掘調査を示すローマ数字「IV」を組み合わせて「HMU-IV」とした。

3 調査座標とグリッドの設定

調査座標とグリッドは、八幡裏遺跡群第2次発掘調査で用いた座標と同一原点による連続したグリッドを設定した。座標原点は国土地理院の平面直角座標第Ⅷ系に属するX=45468.000、Y=-22074.000で、北緯36度24分6秒、東経138度15分3秒の地点である。

調査グリッドは、座標原点を起点として平面直角座標に沿って3m×3mで設定した。グリッドの番号は、座標原点からグリッド北西隅までの距離を次のように変換して用いた。すなわち座標原点を0として、方向を示すために東・西・南・北にE・W・S・Nを、距離を示すために3mを1単位として1・2・3・4…の数値を与え、この両者の組み合わせによって表した。例えば、座標原点から南へ135m、西へ3mの地点を北西隅にもつグリッドはS45W1として表される。

4 調査方法

調査範囲は、試掘調査の結果に基づき南北長95mで設定した。東西の幅は車道部分の7.5mの範囲であったが、勾配をとって掘削したため、検出面での幅は5~6.8mとなった。表土の排除にはバックホーを用い、その後の遺構検出、掘上げ作業は人力によって行った。

今回の発掘調査では、調査期間の制約から冬の12月から1月にかけて現地調査を実施せざるを得なかった。そこで、凍害による遺構の損傷と降雪による調査の遅延を防ぐために、調査範囲全体を仮設覆屋（農業用ビニールハウス）で覆い調査を進めた。苦肉の策とも言うべき方で、写真撮影の際などに支障となったが、凍害や激次の降雪には一応の効果があった。

5 遺構測量

遺構の平面実測は、前述の調査グリッドを基準に簡易遣り方方式で行い、さらにラジコンヘリコプターによる測量用空中写真の撮影と図化作業を新日本航業株式会社に委託して実施した。

第2章 遺跡の環境

第1節 自然的環境

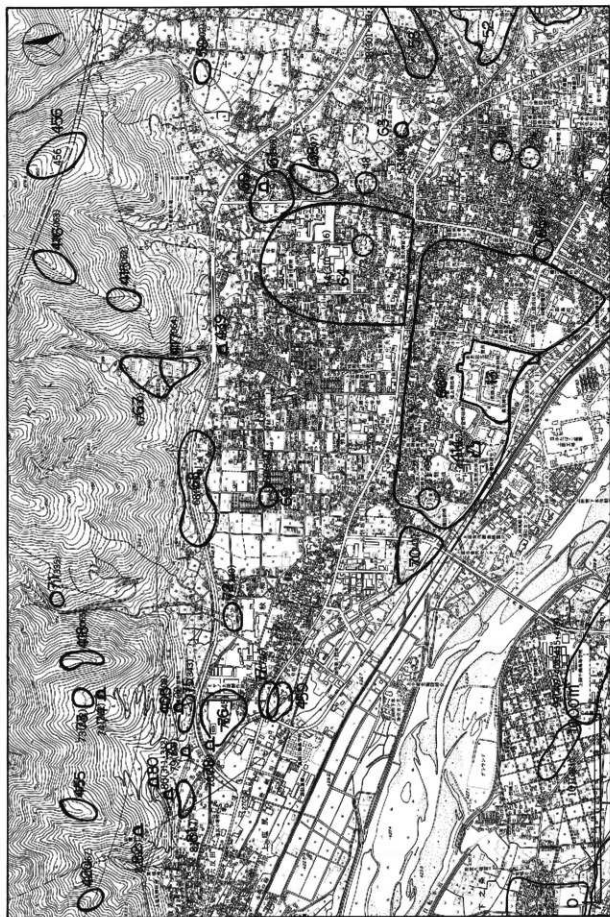
八幡裏遺跡群の所在している上田盆地は、長野県の東部に位置する小盆地である。上田盆地の地形は、北方を底辺とする逆三角形を呈し、一边はほぼ10kmである。北方の基盤は第三系の太郎山脈で、南西方の基盤は小牧山地である。東方の高まりは基盤ではなく第四系の烏帽子火山となっている。上田盆地の南西方には、塩田平と呼ばれる小盆地が接しており、両盆地の間を千曲川が南東から北西に流下している。

遺跡の北に聳える太郎山脈は、西は岩鼻から東は戸石城まで屏風のように連なり、中央の黄金沢渓谷によって太郎山(1,164m)と東太郎山(1,300m)とに分けられている。黄金沢より西方の稜線は、多少の凹凸をみせ、岩石がちで植生も良くない。太郎山の西の虚空蔵山(1,076m)は、岩肌を露出して虚空に突出している。その南斜面は急峻で、山麓線は直線的に上田盆地に接している。それに対して、黄金沢の東方の山麓には丘陵状の尾根が伸びている。最東方には上野と呼ばれる丘陵性の台地が付属し、最高所はこれも虚空蔵山(762m)と呼ばれている。この台地は烏帽子火山から流出した溶岩台地で、神川左岸の矢沢方面と地質的には同質であり、もとは続いていたものである。

太郎山脈の南麓には、いくつかの河谷が数えられ、谷の出口には扇状地や崖錐が発達している。八幡裏遺跡群の所在する黄金沢扇状地は、黄金沢川の形成した最大の規模を持つ扇状地で、南は矢出沢川によって切られ、西は千曲川第1段丘を崩して第2段丘面にかかり、扇末端は虚空蔵山の出口にまで及んでいる。黄金沢の名称は、石英安山岩質の凝灰中に黄鉄鉱を含んだ鉱脈があることに由来し、かつては採掘されていた形跡がある。

上田盆地付近の地質構造は、基盤の第三系が落ち込み、第四系がそれを埋めて堆積している。千曲川右岸の山地は、大部分が中新世の内村層で、伊勢山付近の一部に別所層が分布している。内村層及びその相当層は、上田市北方・真田町・坂城町北方・更埴市・長野市松代・須坂市東方などに分布しており、上田市北方地域の内村層は、下位から大峰山層・太郎山層・横尾層に区分される。大峰山層は、主に黒色頁岩からなり、まれに安山岩質で緑色の火山岩層や砂岩層をはさむ。層厚は800m以上である。太郎山層は、大峰山層を整合に覆い、石英安山岩ないし流紋岩質凝灰岩からなる。層厚は600mを測る。横尾層は、石英安山岩ないし流紋岩質凝灰岩、及び同質角礫岩と黒色頁岩の互層で、層厚は、900m以上である。これらの火砕岩は、淡緑色で、変質が著しく、大峰山層は、曹長石・緑泥石、太郎山層は、曹長石・石英・緑泥石、横尾層は、曹長石・石英・緑泥石質雲母を主として絹雲母・方解石・白チタン石・緑れん石などを伴う組み合わせがみられる。

平地に分布する第四系は、下位から虚空蔵山層・染屋層・上田泥流堆積物・河岸段丘堆積物・扇状地堆積物に区分される。虚空蔵山層は第四系の最下層で、岩清水台地、太郎山の麓にあたる斜面を形成する。東部では主に烏帽子火山の安山岩質の凝灰角礫岩からなり、烏帽子火山に由来する礫層・砂



第1圖 周辺遺跡位置圖

第1表 周辺遺跡一覧表

県番号	名称	市番号	名称	所在地	時代	備考
13	上田城跡	060	上田城跡	上田字二の丸	近	国史跡・90～95年調査
52	染屋台条里水田跡遺跡		染屋台条里水田跡遺跡	上野・住古・古里・国分	弥～平	断続的に調査
58	金井裏遺跡	301	金井裏遺跡	上田字金井裏	弥～奈	85・96年調査
		303	蟹原遺跡	上田字蟹原	弥・古	
		304	桜林遺跡	上田字桜林	弥	
59	東奥山原遺跡	302	東奥山原遺跡	上田字東奥山原	弥・平	
		302	二子塚古墳	上田字秋葉裏	古	市史跡
60	二子塚古墳	303	二子塚古墳・碓塚	上田字秋葉裏	古	
		304	二子塚古墳・碓塚	上田字秋葉裏	古	湮滅
		305	二子塚古墳・碓塚	上田字秋葉裏	古	湮滅
		306	竈田遺跡	上田字竈田	弥	
		309	大星西遺跡	上田字大星西	縄	
62	雁掘遺跡	307	雁掘遺跡	上田字雁掘	弥・古	
		308	秋葉裏遺跡	上田字秋葉裏	古	
63	西丘遺跡	305	西丘遺跡	上田字西丘	古	
		310	思川遺跡	上田字思川	縄・古・平	52・94年～調査
64	八幡裏遺跡	311	大星前遺跡	上田字大星前	縄	
		312	海善寺裏遺跡	上田字海善寺裏	縄～古	
		313	新田遺跡	上田字新田	古	
		314	道祖神遺跡	上田字道祖神	縄・古	
		315	八幡東遺跡	上田字八幡東	古	
		316	八幡裏遺跡	上田字八幡裏	縄～平	本書所収遺跡
		317	日蔭遺跡	上田字日蔭	縄	
65	海野遺跡	318	下房山遺跡	上田字下房山	弥	
		319	海野遺跡	上田字海野	平	
		320	鎌原遺跡	上田字鎌原	弥	
66	上田城跡	060	上田城跡	上田字二の丸	近	
67	上平遺跡	330	上平遺跡	常磐城字上平	縄～平	68・83年調査
		331	横畑遺跡	常磐城字横畑	古	
		332	仁王田遺跡	常磐城字仁王田	古	
68	殿田遺跡	333	殿田遺跡	常磐城字殿田	古～平	85年調査
69	七反田遺跡	334	七反田遺跡	常磐城字七反田	古	
70	唐臼遺跡	341	唐臼遺跡	常磐城字唐臼	古～平	
71	堂平遺跡	335	堂平遺跡	秋和字堂平	古	
		336	寺山遺跡	秋和字寺山	古	
		337	亀田遺跡	秋和字亀田	古	
		338	山道遺跡	秋和字山道	古～平	
		339	大明神遺跡	秋和字大明神	古	
72	堂屋敷遺跡	340	堂屋敷遺跡	秋和字堂屋敷	古・中	
73	甲弥陀平遺跡	342	甲弥陀平遺跡	秋和字甲弥陀平	古～平	
74	弥陀平古墳	307	弥陀平古墳	秋和字甲弥陀平	古	
75	六句遺跡	343	六句遺跡	秋和字六句	縄・古～平	
		344	風呂川遺跡	秋和字風呂川	縄～平	
76	宮原遺跡	345	宮原遺跡	秋和字宮原	縄～平	97・98年調査
77	姥石遺跡	346	姥石遺跡	秋和字姥石	古	
78	宮原古墳	310	宮原古墳	秋和字宮原	古	湮滅
79	風呂川古墳	309	風呂川古墳	秋和字風呂川	古	92年調査
		311	東山古墳	上塩尻字東山	古	湮滅
80	弥勒堂古墳	312	弥勒堂古墳	上塩尻字弥勒堂	古	湮滅
81	弥勒堂遺跡	347	弥勒堂遺跡	上塩尻字弥勒堂	縄・古～中	92年調査
82	持越古墳	313	持越古墳	上塩尻字持越	古	湮滅
		348	越畑遺跡	上塩尻字越畑	古～平	
		349	広見遺跡	上塩尻字広見	古	
405	秋和八幡大蔵京古墳	308	大蔵京古墳	秋和字大蔵京	古	市史跡
414	小泉曲輪城跡	061	小泉曲輪城跡	上田字上田城廻り	中～近	
415	牛伏城跡	062	牛伏城跡	常磐城字虚空蔵	中	
416	アラ城跡	063	アラ城跡	常磐城字太郎山	中	
417	北林城跡	064	北林城跡	常磐城字上平	中	
418	飯綱城跡	065	飯綱城跡	秋和字飯綱山	中	
420	燕城跡	067	燕城跡	上塩尻字原	中	
439	豊原古墳	439	豊原古墳	常磐城字豊原	古	87年調査
455	持越城跡		持越城跡	上塩尻字持越	中	
456	花古屋城跡		花古屋城跡	上田字花古屋	中	
459	柿ノ木遺跡	459	柿ノ木遺跡	秋和字柿ノ木	古	94年調査

層をはさむ堆積物である。太郎山山麓では、太郎山の内村層に由来する緑色凝灰岩の角礫からなる礫層である。岩清水付近では、200m以上の層厚があり、上部を立山火山起源のクリスタルアッシュ層が覆っている。染屋層は、染屋台の平坦面下を構成する主として礫層よりなる湖成層で、下部層と上部層に区分される。下部層は成層した粘土層と砂礫層の地層で、上田盆地一帯に分布し、千曲川や神川の河床に露出している。層厚は50~70m以上である。上部層は虚空蔵山層と上田泥流堆積物の分布地域の間に分布し、礫層を主として砂層をはさんでいる。最上部を水中堆積したと考えられる砂状浮石層が覆っている。上田泥流堆積物は、上田盆地の千曲川右岸から塩名田付近までの20kmにわたって存在する火山性泥流堆積物で、染屋層上部を削り、その上を覆っている。起源は不明だが、火山灰のマトリックス中に5~20cm大の安山岩角礫がまばらに混入し、まれに2~3mの巨石も存在する。上田城跡南側に好露頭があり、層厚は約8mを測る。河岸段丘堆積物は、千曲川や神川に沿って形成され、砂層をはさむ円礫で構成されている。

八幡裏遺跡群は、黄金沢扇状地西端で和合沢の小扇状地の末端に所在している。今回の第4次発掘調査が行われた付近の地形は、北東から南西に向けて緩やかに傾斜しており、遺構検出面の標高は、北端で467.60m、南端で465.65mを測る。

第2節 歴史的環境

太郎山脈南麓一帯の考古学的遺跡を概観すると、東側の黄金沢扇状地から西の千曲川第2段丘面にある秋和集落付近にかけて、扇状地の扇頂部や扇端部、千曲川の段丘に沿って多数の遺跡が分布している。しかしながら、扇状地の押し出しによる遺跡・古墳の埋没や、市街化の進行によって分布調査の困難な地域も多いことから、遺跡の分布はより広範に及ぶものと推測される。

太郎山脈南麓地域で最も古い遺跡は、秋和地籍の第2段丘面西端に所在する宮原遺跡である。宮原遺跡からは縄文時代前期の上原式期の土器や石器が表採されている。

縄文時代中期になると遺跡の数や規模は増大し、塩尻地籍の弥勒堂遺跡、秋和地籍の風呂川遺跡、六句遺跡、常磐城地籍の上平遺跡、上田地籍の大星西遺跡、思川遺跡、大星前遺跡、海善寺裏遺跡、道祖神遺跡などが確認されている。上田地籍の5遺跡は、黄金沢扇状地の南西端に所在する一連の遺跡群として把握でき、特に国立長野病院（旧国立東信病院）敷地を中心とした思川遺跡は、上田地方を代表する該期遺跡のひとつとしてあげることができる。

思川遺跡は、昭和27年に病棟の改築工事に伴って五十嵐幹雄氏によって発掘調査が行われた。調査では明確な遺構は確認されなかったものの、中期後葉から後期中葉にかけての土器や石器とともに、ニホンジカ、イノシシを中心とする相当量の動物遺存体が出土した。その後、平成6年に国立長野病院の建設工事に伴い約8,000㎡が発掘調査され、柄鏡形敷石住居址を含む住居址7軒と土壇、集石

遺構などが検出された。中でも土壌から検出された屈葬人骨は、遺存状態も良く、貴重な調査例となった。出土した遺物は、中期の加曾利EIV式系、後期の称名寺式系、堀之内I・II式系、加曾利B式系などの土器のほか、石器類、土偶、大珠、獣骨など多岐にわたっている。

塩尻地籍の弥勒堂遺跡は、虚空蔵山南麓の小扇状地の扇頂部に所在しており、新幹線建設工事に伴い、平成4年に財団法人長野県埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われた。縄文時代の遺構は確認されなかったが、中期から後期の土器片や石器が出土している。

縄文時代晩期から弥生時代後期前半にかけての遺跡は、上田地方では僅かしか確認されていない。八幡裏遺跡は数少ない該期遺跡のひとつで、大正14年に上田温泉電軌北東線の敷設工事が行われた際に、弥生時代中期栗林II式期の壺形土器2点と大型蛤刃石斧が出土している。

弥生時代後期後半から古墳時代前期にかけての遺跡は、前述した宮原遺跡、風呂川遺跡、上平遺跡、海善寺裏遺跡のほか、黄金沢扇状地の扇頂部付近には東奥山原遺跡、南西面には雁堀遺跡、南東端の矢出沢川沿いには金井裏遺跡が確認されている。また、市街化のため分布範囲は明らかでないが、千曲川第2段丘面にも広範に遺跡が存在する。

上平遺跡は、太郎山脈南西麓標高約550mのテラス状台地に所在し、その特異な占地から高地性集落の可能性が指摘されている遺跡である。昭和43年の発掘調査では後期後半の箱清水式土器と集石を伴う土壌が検出された。また、送電線鉄塔建設に伴い昭和58年に行われた発掘調査では、後期終末から古墳時代前期初頭にかけての堅穴住居址2軒が検出され、弥生土器から土師器へと移行する過渡期の特徴的な土器が出土している。

金井裏遺跡と宮原遺跡では、現在まで2回にわたる発掘調査が行われており、後期後半から古墳時代前期初頭にかけての堅穴住居址が検出されている。

古墳時代中期から後期にかけて上田地方でも古墳が盛んに築造されているが、太郎山脈南麓地域には古い時期の古墳が集中しており注目される。

大蔵京古墳(上田市指定文化財)は、一辺が32~35mの方墳で、高さは5~8mを測る。墳丘上から表採された土師器により、4世紀末から5世紀前半の築造と推定されており、現在確認されている県内最古の方墳で、上小地域では最古の古墳である。

風呂川古墳は、墳丘は失われていたが、平成4年に財団法人長野県埋蔵文化財センターによって北側周濠の一部が調査された。周濠の幅は4~5.5m、調査面からの深さは約1.5mを測る。北東辺の北隅寄りには、掘り残しが1か所設けられ、その西側から石組目とともに多数の土師器が出土した。古墳の規模は、一辺が25~30mの方墳と推定され、築造年代は、一括出土した土師器より5世紀第2四半期と推定されている。

二子塚古墳(上田市指定文化財)は、八幡裏遺跡の北東方に位置しており、定型化した前方後円墳としては東信地方で唯一の古墳である。墳丘は後世の改変が激しいが、現在の規模は、中軸の全長約51m、前方部の長さ約26m、最大幅約25m、高さ約5m、後円部の長さ約25m、最大幅約39m、高

さ約 6mを測る。古墳の北側には周濠の一部とみられる窪みがあり、墳丘から表採された円筒埴輪片から 6 世紀前半の築造と推定されている。本古墳の周囲にはかつて 4～5 基の円墳が存在していたと伝えられるが、現存するのは北西部の円墳 1 基のみである。これらの古墳は、二子塚古墳の陪塚と言われていたが、時期的に異なるため現在では否定されている。

後期の古墳は、前述の伝二子塚古墳陪塚のほか、塩尻地籍の東山古墳、弥勒堂古墳、持越古墳、秋和地籍の弥勒平古墳、宮原古墳が知られていたが、現存するのは弥勒平古墳 1 基のみである。

弥勒平古墳は、虚空蔵山の南東山麓に所在する円墳で、石室の所在は不明だが、墳丘はほぼ完存しており、規模は東西径約 21m、南北径約 18.5m、高さ約 3mを測る。

また、常磐城地籍では昭和 62 年に下水道工事中に新たな古墳が発見され、豊原古墳と命名された。豊原古墳は、完全に埋没していたが、横穴式石室の一部について発掘調査が行われ、鉄刀 5 口、刀装具、鉄鍬、金環、ガラス小玉等とともに 5 体以上の人骨が出土した。同古墳の隣接地には塚穴の地名が残り、かつては 2 基の古墳が所在したと伝えられている。

これらの古墳の築造を支えた集落遺跡は、太郎山南麓一帯に広く分布しているが、発掘調査が実施された遺跡は少なく、その様相は明確ではない。

今回発掘調査が行われた八幡裏遺跡群第 4 次調査では、該期の住居址が 7 軒検出されたほか、隣接する思川遺跡からも、該期の遺物が出土している。また、国立長野病院敷地の北側にある段丘の上面を調査した第 1 次調査でも古墳時代後期の住居址が 1 軒確認されている。

奈良、平安時代の遺跡も前代に引き続き、当地域の全域に広く分布している。今回の発掘調査地点では、南部で奈良時代の住居址 1 軒を、北部で平安時代後期の住居址 1 軒を確認した。隣接する第 2 次調査地点では、奈良時代の住居址 1 軒、平安時代の住居址が 12 軒確認されており、平安時代の住居址については一連の集落と推測される。

塩尻地籍の弥勒堂遺跡は、平成 4 年に行われた発掘調査によって、10 世紀前半と推定される鍛冶工房跡 1 軒を含む 4 軒の住居址が確認されている。

秋和地籍の殿田遺跡は、上田バイパスの建設工事に伴い、昭和 60 年に発掘調査が行われ、堅穴住居址 5 軒のほか土坑、ピットなどが検出された。遺構に伴う遺物は僅かであったが、奈良時代から平安時代後期にわたる多様な土器と鉄鍬、「和同開珎」銭などが出土している。

常磐城地籍の上平遺跡では、昭和 43 年の発掘調査によって奈良時代の須恵器窯 1 基が調査されたほか、行基式の丸瓦が採取されている。また、唐臼遺跡は、令制東山道の互理駅推定地とされているが、塔心礎とされる大石が現存し、瓦塔片が表採されていることなどから、古代寺院の存在も推測される。なお、常磐城地籍には、糸里水田的地割りが存在しているが、住宅地化が進み失われつつある。

中世の集落遺跡は、現在の集落と重なっている部分が多く不明な点が多い。秋和地籍の宮原遺跡では、教棟の掘立柱建物址が確認され、柱穴覆土より「開元通寶」銭が出土したことから、該期の建物址と推定されている。また、塩尻地籍の弥勒堂遺跡では、4 基以上の土壇墓が発掘調査されている。

中世独特の考古資料としては、秩父産の緑泥片岩を用いたいわゆる武蔵型板碑がある。武蔵型板碑は、埼玉県を中心に関東地方に広く分布しており、長野県はその分布圏の西端にあたる。当地域からは、秋和地籍で1基、塩尻地籍の信福寺跡から10基が出土している。信福寺跡から出土した10基は、嘉元2年(1304)から宝徳4年(1452)までの記年銘があり、上田市の文化財に指定されている。

中世の戦乱を背景に太郎山脈の山頂や中腹には数多くの山城が構えられている。山城跡は、東より戸石城跡、柏山城跡、花小屋城跡、アラ城跡、牛伏城跡、北林城跡、飯綱城跡、虚空蔵山城跡、持越城跡、高ツヤ城跡、燕城跡、和合城跡とつづき、戦国末期には、葛尾城を本拠とする村上氏の支配となり、村上連珠砦と称された。

天正11(1583)年より真田昌幸によって上田城の築城と城下町の形成が開始され、この地の様相は一変する。昌幸は、矢出沢川の流路を変えて外堀とし、近隣から寺社や人々を城下に移らせて大規模な城下町の形成を図った。上田城は、城郭自体の規模はさほど大きくはないが、南方は千曲川の分流である尼ヶ瀬に面した断崖に臨み、他方は城下町と河川が巧みに配され、周辺一帯が極めて堅固な防衛陣地として機能した。真田氏の上田城は、天正13(1585)年と慶長5(1600)年の2回にわたって徳川氏による攻撃を受けるが、いずれも逃げ、近世城郭としては他に類のない武名を誇った。天正13年の合戦以降、昌幸は豊臣秀吉に臣従し、豊臣系の大名として城郭と城下町の整備を進めている。上田城跡から出土している五七桐紋の鬼瓦片や、菊花紋軒丸瓦、金箔を押した鯉瓦、鬼瓦、鳥舎瓦などは、当時の上田城にかなり大規模な建造物群が存在していたことを示唆している。しかし、真田氏の上田城は、関ヶ原合戦後の慶長6(1601)年に徳川氏配下の諸将によって徹底的に破却され、その遺構は全く残っていない。

現存する上田城は、元和8(1622)年に真田信之に代わり上田藩主となった仙石忠政によって、新たに築き直された城である。上田城再築工事は、寛永3(1626)年から開始され、2年後の寛永5年に忠政が病床に伏すまで続けられ、堀、土塁、石垣等の普請(土木工事)は完成したものの、櫓や櫓門を建てる作事(建築工事)は、本丸に7棟の重層隅櫓と2棟の櫓門が完成したのみで、忠政の病死以後、再開されることなく未完成に終わった。

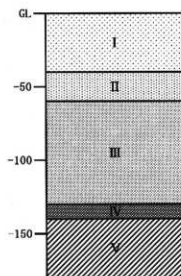
上田城の石垣に用いた石材の大部分は、太郎山の各所から切り出された緑色凝灰岩で築かれており、矢穴の残る石切り場跡や「石切」の地名が残っている。また、上田城の周辺に残る「石ノ町」の地名は、石材の集積・加工場の跡と推測されている。

仙石氏とその後に入封した松平氏は、蚕糸業の育成に力を注ぎ、上田は国内有数の良質な蚕種の生産地に発展した。明治・大正期にも良質な蚕種・生糸の生産と、三吉米熊らによる人材育成によって、上田は近代日本の主要産業となった蚕糸業の発展に大きく貢献した。八幡裏遺跡群の所在する黄金沢扇状地は、昭和初期までは一面の桑園が広がり、上田の蚕糸業を支えていたが、蚕糸業の衰退や人口の増加により、果樹への転作や宅地化が進み、市内でも良好な住宅地へと変貌している。

第3節 基本層序

今回の発掘調査に係る部分の基本層序は以下のとおりである。概ね扇状地の押し出しによる角礫を多く含んだ砂礫土層で構成されている。現地表面から遺構検出面となるV層上面までの深さは、調査地北方で約180cm、南方で約140cmを測る。

- I層 盛土。褐灰色を呈し、砂質で小礫を多く含む。層厚は約40cmを測る。
- II層 灰褐色砂礫土。3~5cmの角礫を多く含む。層厚は北方で約20cm、南方で約60cmを測る。
- III層 灰褐色砂質土。層厚は北方で約1m、南方で約50cmを測る。
- IV層 褐色弱粘質土。層厚は北方で約40cm、南方で約10cmを測る。
- V層 締めりのよい灰褐色砂礫土。1~3cmの小礫を多く含む。本層上面が遺構検出面である。



第2図 基本層序模式図

第3章 調査の結果

第1節 調査の概要

八幡裏遺跡群の第4次発掘調査で検出された遺構は、古墳時代後期から平安時代後期にわたる竪穴住居9軒、土坑3基、ピット27基である。調査範囲が道路車道敷に限定された調査であったため、完掘できた竪穴住居はなかった。

古墳時代後期の遺構は、第1号・第4号・第5号・第7号・第8号・第10号・第11号住居址、第1号土坑等がある。7軒の住居址は、切り合い関係がなく単独で検出されている。規模は、第10号住居址が9.6×8.0mと突出した大きさを持つ以外は、一辺が5～6m前後と一般的な規模の住居址である。住居址の方向は、第1号と第11号、第4号・第7号・第8号・第10号について、主軸または副軸方向がほぼ一致している。火処は、第5号・第8号・第10号住居址において竈が検出されたほかは、調査区域の制約から未確認である。ただし、第11号住居址は竈を持たなかった住居址と推定される。検出された竈は、いずれも左右袖先端部に円礫を立て、粘土で構築している。第8号・第10号住居址では、炊口の天井石が竈手前に遺存していた。また、第10号住居址は、約80cmの煙道が確認され、煙道の両側には扁平な円礫が立て並べて構築されていた。

出土遺物は、土師器が主で、須恵器の出土は総じて少なかった。第1号住居址からは、土師器の鉢や高坏など比較的古相を呈する土器とともに、編物石と推定される細長い円礫が一括出土している。第8号住居址からは、竈の周辺を中心に土師器の長胴甕、小型甕、大型壺、甎、坏、皿、高坏、手捏ね土器等が出土し、良好なセットを構成している。第10号住居址は、前述したとおり大型の住居址で竈の規模も大きく、出土遺物の器質や制作技法は第8号住居址出土遺物と共通する特徴が多いが、器種に土師器の甕や長短の三角透かし窓を持つ高坏などが含まれている点に相違がみられる。

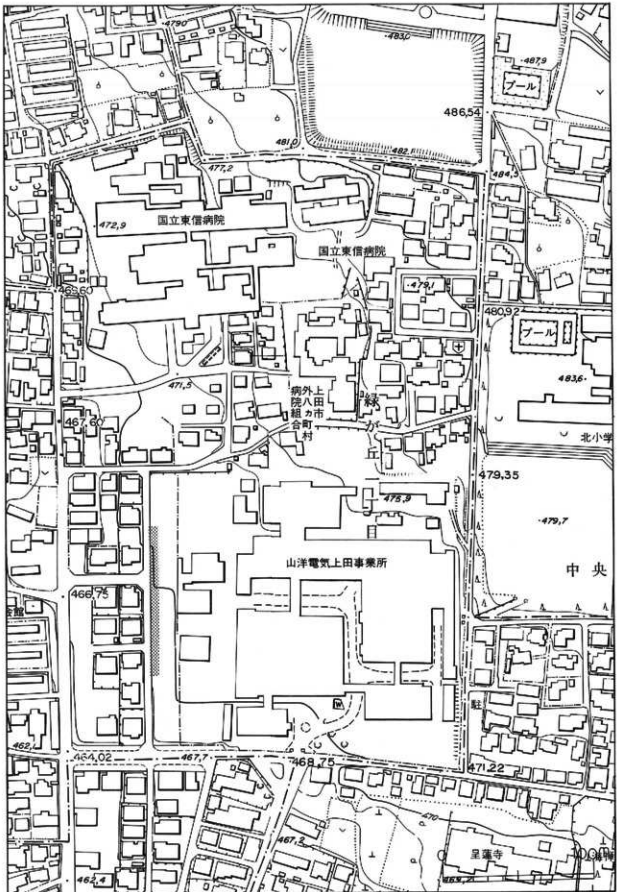
奈良時代の遺構は、最南部の第12号住居址がある。攪乱のため僅かな範囲しか遺存していなかったが、土師器の甕、坏、須恵器の坏蓋、坏などが出土している。

平安時代後期の遺構は、第2号住居址がある。住居址の遺存状況はよくなかったが、遺物の出土は多く、土師器の羽釜、小型甕、坏、盤、碗、灰釉陶器の皿が出土している。所産期は10世紀後半から11世紀前半と推定される。隣接する第2次調査地点では、該期の竪穴住居址が3軒確認されており、集落の南西端に位置する住居址と推定される。

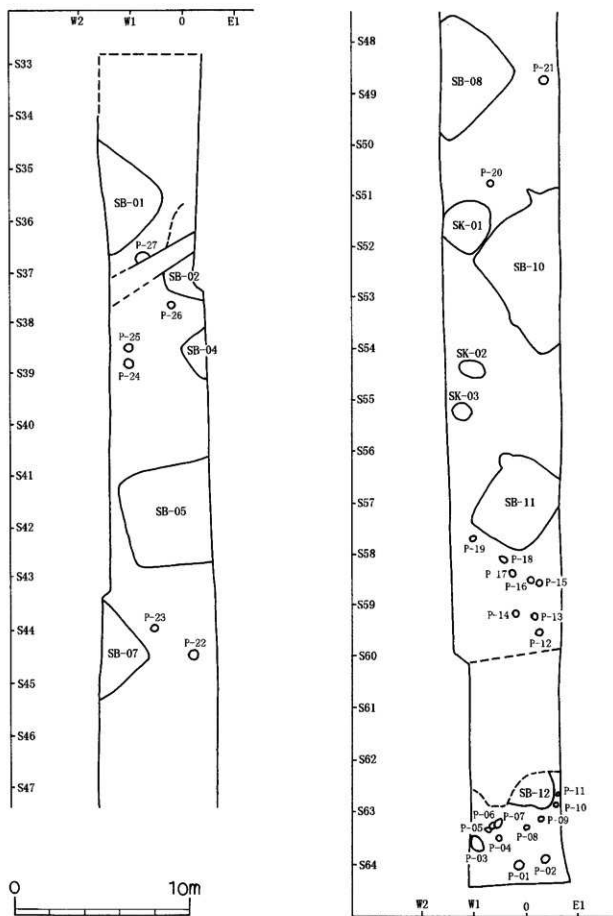
土坑・ピットは、配置の規則性や、遺物の出土は乏しく、性格等は不明なものが多い。所産期は、出土遺物から大部分が古墳時代後期と推定される。

遺構に伴わない遺物としては、縄文時代中期から後期にかけての土器片、石器（石鏃、磨石）が出土している。

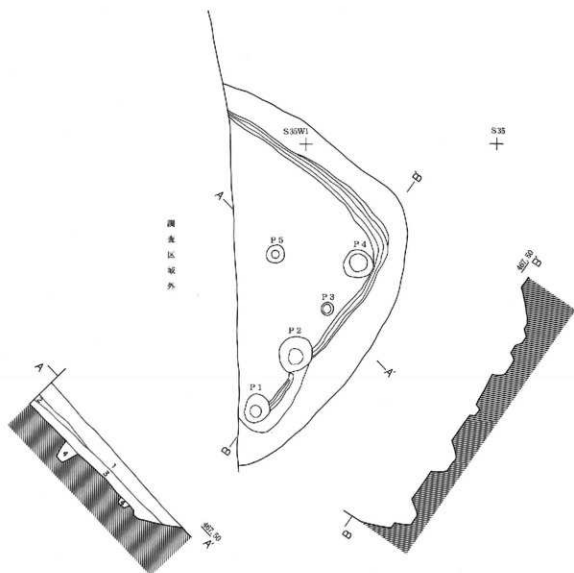
第2節 遺構



第3図 八幡裏遺跡IV位置図

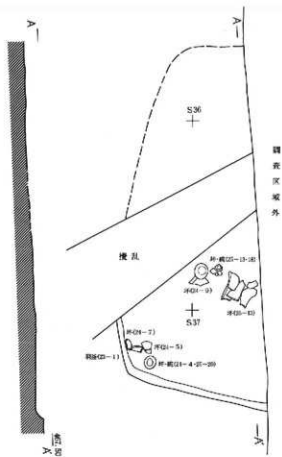


第4図 遺構全体図

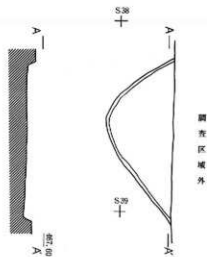


- 1 10YR2/1 黒色砂質土 (しまり粘性なし 小礫混)
- 2 10YR5/2 黒褐色土 (強かに砂質 小礫混)
- 3 10YR2/1 黒色砂質土 (しまり粘性なし)
- 4 10YR5/1 黒褐色土 (しまり粘性なし)

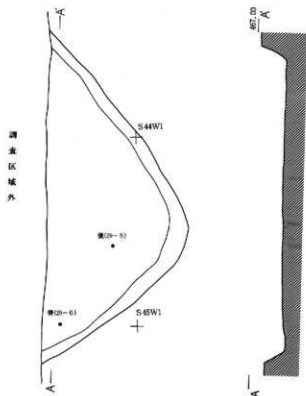
第5図 第1号住居址実測図



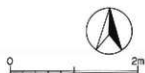
第6图 第2号住居址平面图

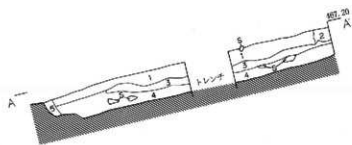
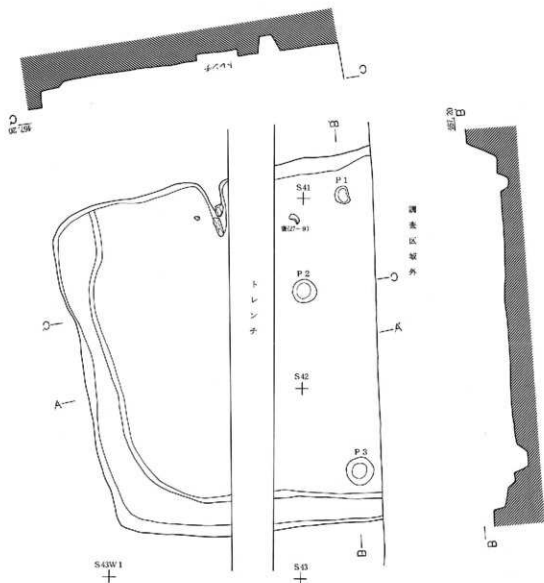


第7图 第4号住居址平面图



第8图 第7号住居址平面图



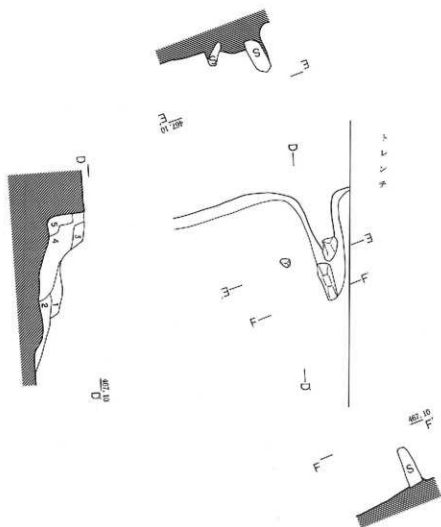


- 1 10YR4/2 灰青色砂質土 (こぶし、椀大の礫を含む)
- 2 7.5YR3/2 黒褐色砂質土 (椀大の礫を含む)
- 3 10YR4/3 灰色黄褐色土 (椀小粒の礫を含む)
- 4 7.5YR2/2 黒褐色シルト質土 (こぶし、椀大の礫を含む)
- 5 10YR/4 緑褐色砂質土 (木、椀大粒の礫を含む)



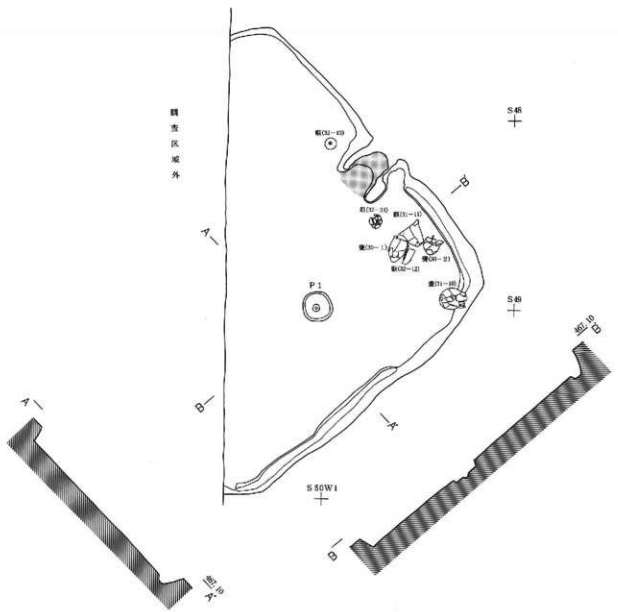
0 2m

第9図 第5号住居址実測図

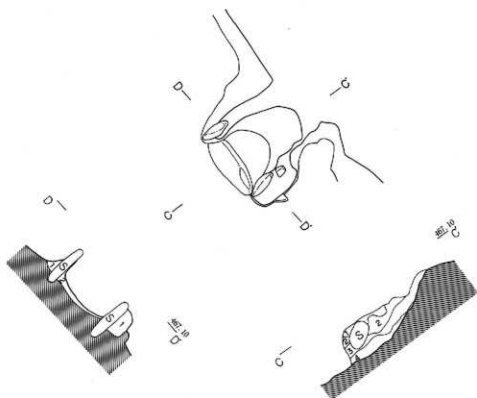


- 1 10YR2/3 黒褐色土 (1~2cmの遺存は)
- 2 10YR3/2 黒褐色砂質土
- 3 7.5YR3/1 黒褐色砂質土 (硬含む)
- 4 5YR2/3 暗褐色褐色土 (焼土多量に含む)
- 5 5YR3/1 黒褐色土

第10図 第5号住居址竪突測図



第11図 第8号住居址実測図

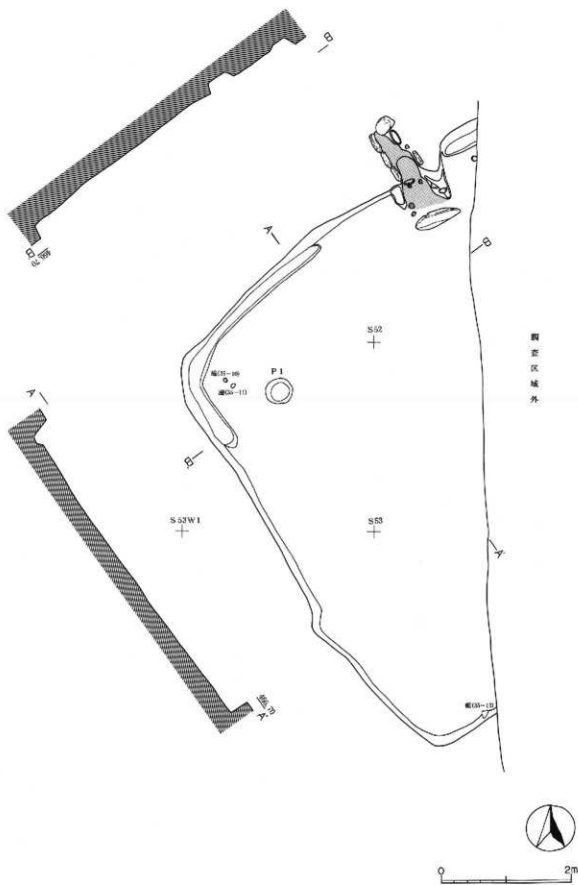


- 1 黄褐色粘土
- 2 焼土

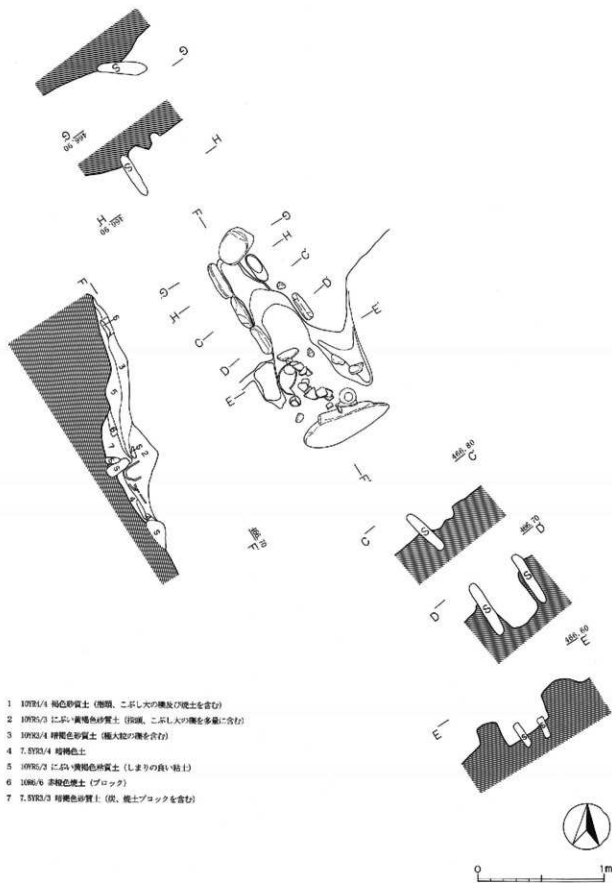
- 1 10932/2 黒褐色土 (2~3cmの層多く含む)
- 2 10935/4 細かい黄褐色土
- 3 10932/1 黒色シルト質土
- 4 8792/2 黒褐色土 (焼土まざる)



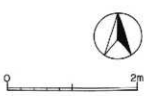
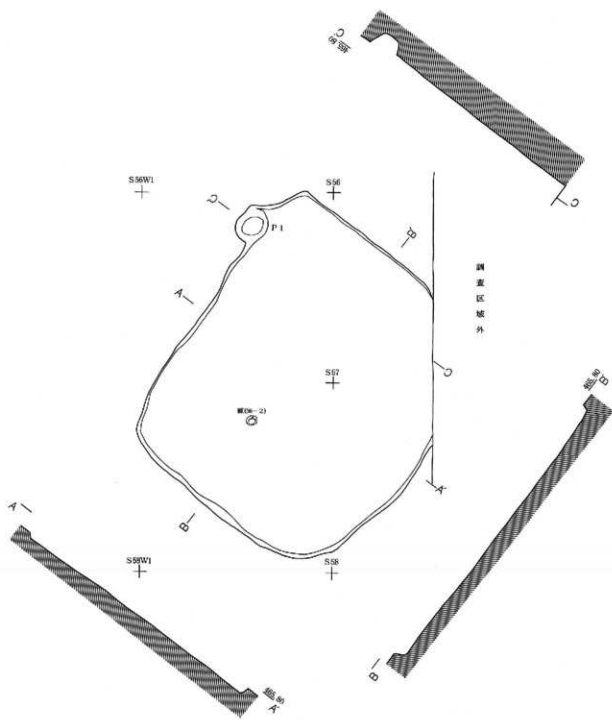
第12図 第6号住居址竈実測図



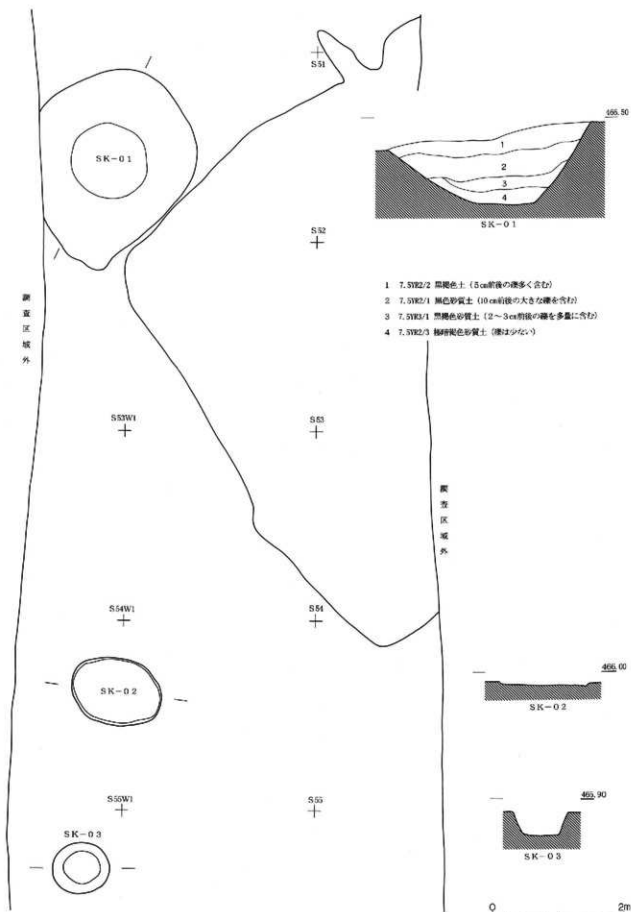
第13图 第10号住居址実測図



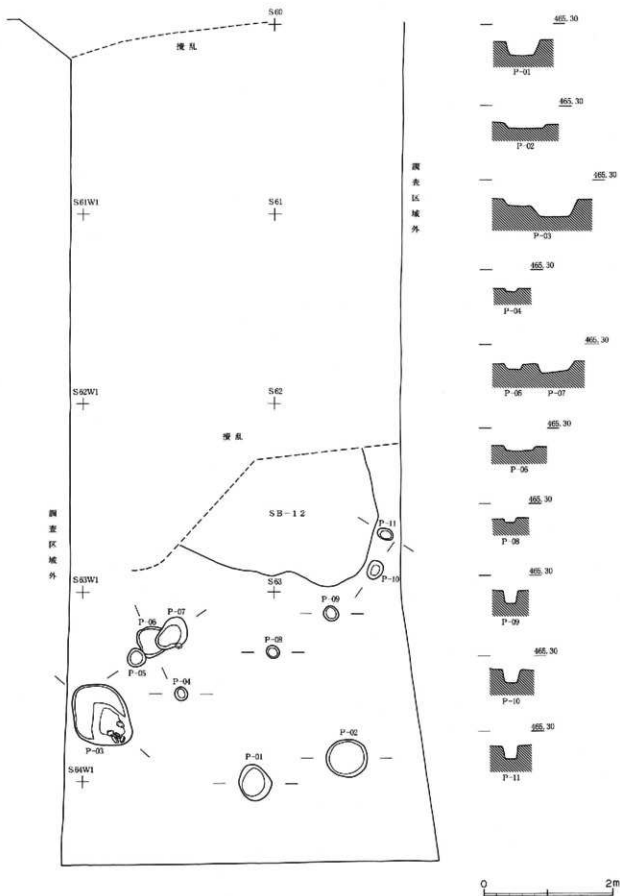
第14図 第10号住居址産実測図



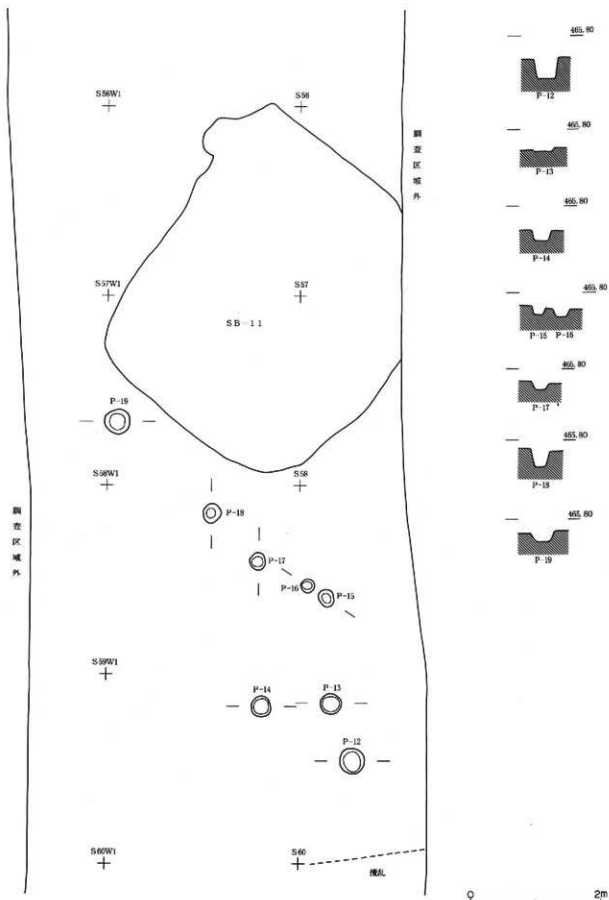
第15图 第11号住居址实测图



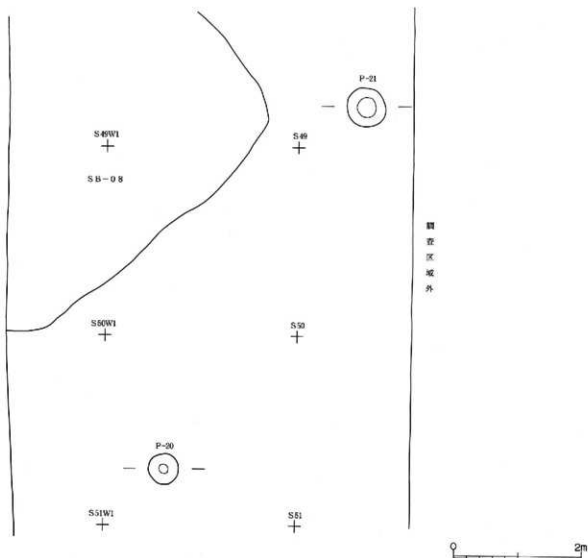
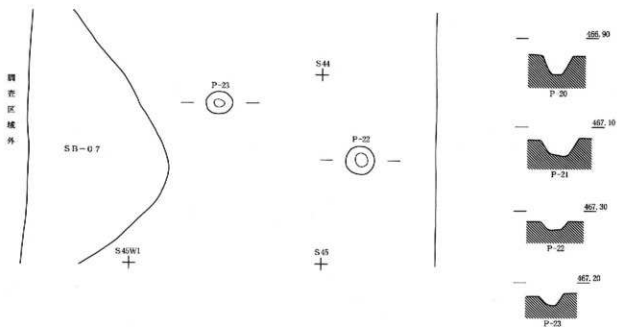
第17図 土坑実測図



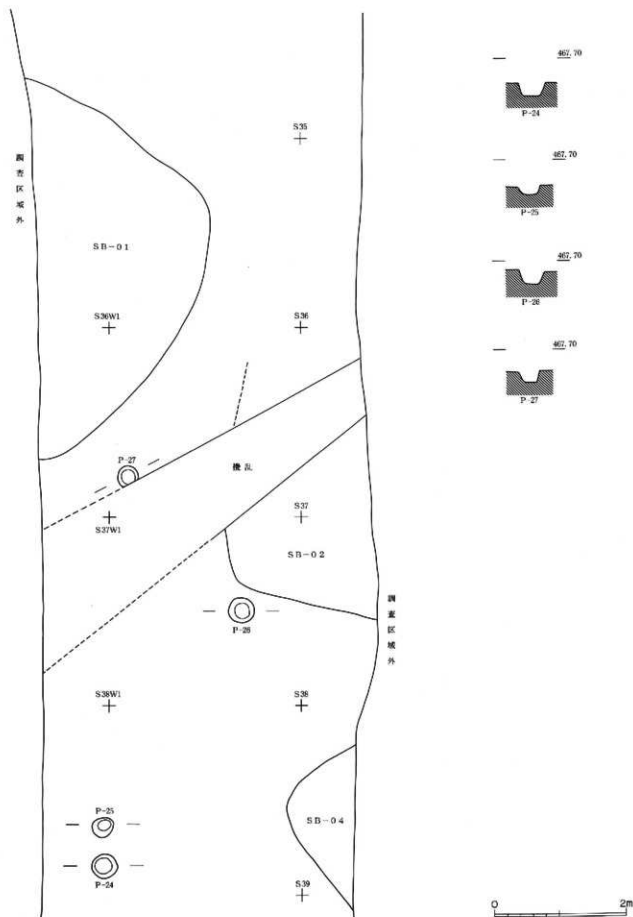
第18図 ピット実測図(1)



第19図 ピット実測図(2)



第20図 ビット実測図(3)



第21図 ビット実測図(4)

第2表 竪穴住居址一覧表(1)

遺構番号	第1号住居址 (SB-01)	遺構挿図番号	第5図	
所産期	古墳時代後期	遺物挿図番号	第22図	
竪	グリッド	S34・S34W1・S35・S35W1・S36・S36W1	位置	不明
	平面形状	隅丸方形	中央部軸長	
	規模	(5.30) × (5.20)	両袖部内幅	
	主軸方向	N-55° -W	燃烧部形態	
	壁高	0.31~0.50	煙道	
	壁の立ち上がり	緩やかに立ち上がる	火床	
	床面積	不明	備考	
柱	穴 P1(0.47×0.38×0.27)・P2(0.60×0.50×0.21)・P3(0.20×0.20×0.08)・P4(0.45×0.43×0.09)・P5(0.30×0.26×0.25)			
穴				
周溝	溝 北東壁・南東壁(幅0.12~0.20、深さ0.03~0.06)			
備考	西半部調査区域外。			

遺構番号	第2号住居址 (SB-02)	遺構挿図番号	第6図	
所産期	平安時代後期	遺物挿図番号	第23~25図	
竪	グリッド	S35・S35W1・S36・S36W1・S37・S37W1	位置	不明
	平面形状	隅丸方形(?)	中央部軸長	
	規模	(5.07) × (2.50)	両袖部内幅	
	主軸方向	N-12° -E	燃烧部形態	
	壁高	0.00~0.09	煙道	
	壁の立ち上がり	緩やかに立ち上がる	火床	
	床面積	不明	備考	
柱	穴			
穴				
周溝	溝			
備考	攪乱に切られる。東半部調査区域外。			

遺構番号	第4号住居址 (SB-04)	遺構挿図番号	第7図	
所産期	古墳時代後期?	遺物挿図番号		
竪	グリッド	S38・S38W1・S39	位置	不明
	平面形状	隅丸方形(?)	中央部軸長	
	規模	<2.10> × <1.45>	両袖部内幅	
	主軸方向	N-52° -E	燃烧部形態	
	壁高	0.02~0.13	煙道	
	壁の立ち上がり	緩やかに立ち上がる	火床	
	床面積	不明	備考	
柱	穴			
穴				
周溝	溝			
備考	東側の大部分が調査区域外。			

第3表 竪穴住居址一覧表(2)

遺構番号	第5号住居址 (SB-05)	遺構挿図番号	第9・10図		
所産期	古墳時代後期	遺物挿図番号	第26~28+C66図		
竪	グリッド	S40・S40W1・S41・S41W1・ S41W2・S42・S42W1	竪	位置	北壁中央部やや西寄り
	平面形状	隅丸方形		中央部軸長	0.90
	規模	5.80×<5.20>		両袖部内幅	(0.50)
	主軸方向	N-12°-W		燃焼部形態	住居壁下に設置
	壁の高	0.40~0.50		煙道	不明
	壁の立ち上がり	緩やかに立ち上がる		火床	住居址床面よりやや高い
床面積	不明	備考	左袖不明。右袖先端に石2個配す。支脚石遺存。		
穴	柱	穴	P1(0.30×0.20×0.15)・P2(0.36×0.36×0.26)・P3(0.42×0.42×0.24)		
	周溝				
	備考		東側調査区域外。		

遺構番号	第7号住居址 (SB-07)	遺構挿図番号	第8図		
所産期	古墳時代後期	遺物挿図番号	第29図		
竪	グリッド	S43W2・S44W1・S44W2・S45W2	竪	位置	北西壁中央部(?)
	平面形状	隅丸方形(?)		中央部軸長	
	規模	<4.10>×<3.30>		両袖部内幅	
	主軸方向	N-35°-W		燃焼部形態	
	壁の高	0.31~0.43		煙道	
	壁の立ち上がり	緩やかに立ち上がる		火床	
床面積	不明	備考			
穴	柱	穴			
	周溝				
	備考		西半部調査区域外。		

遺構番号	第8号住居址 (SB-08)	遺構挿図番号	第11・12図		
所産期	古墳時代後期	遺物挿図番号	第30~33図		
竪	グリッド	S47W1・S47W2・S48W1・S48W2・ S49W1・S49W2	竪	位置	北東壁中央部
	平面形状	隅丸方形		中央部軸長	0.70
	規模	(5.90)×(5.70)		両袖部内幅	0.46
	主軸方向	N-51°-E		燃焼部形態	住居壁下に設置
	壁の高	0.17~0.25		煙道	不明
	壁の立ち上がり	緩やかに立ち上がる		火床	住居址床面とほぼ同じ
床面積	不明	備考	両袖先端に石1個配す。天井石遺存。		
穴	柱	穴	P1(0.48×0.46×0.14)		
	周溝		北東壁東側・南東壁(幅0.13~0.18、深さ0.03~0.10)		
	備考		西半部調査区域外。		

第4表 竪穴住居址一覧表(3)

遺構番号	第10号住居址 (SB-10)	遺構挿図番号	第13・14図		
所産期	古墳時代後期	遺物挿図番号	第34・35図		
竪	グリッド	S51・S51W1・S52・S52W1・S53・S53W1・S54	電	位置	北西壁中央部
	平面形状	隅丸方形		中央部軸長	1.55
	規模	(9.60) × (8.00)		両袖部内幅	0.50
	主軸方向	N-32°-W		燃焼部形態	U字形に0.40掘り込む
	壁高	0.15~0.33		煙道	両側に立石。壁から0.80
	壁の立ち上がり	緩やかに立ち上がる		火床	住居址床面よりやや低い
	床面積	不明		備考	支脚石・天井石遺存。
穴	柱穴	P1(0.41×0.36×0.17)			
	周溝	北西壁・南西壁北側(幅0.25~0.30、深さ0.03~0.11)			
	備考	北東半部調査区域外。			

遺構番号	第11号住居址 (SB-11)	遺構挿図番号	第15図		
所産期	古墳時代後期	遺物挿図番号	第36図		
竪	グリッド	S56・S56W1・S57・S57W1	電	位置	無?
	平面形状	隅丸方形		中央部軸長	
	規模	4.90×4.20		両袖部内幅	
	主軸方向	N-36°-E		燃焼部形態	
	壁高	0.06~0.15		煙道	
	壁の立ち上がり	緩やかに立ち上がる		火床	
	床面積	不明		備考	
穴	柱穴	P1(0.53×0.44×0.17)			
	周溝				
	備考	北東隅部調査区域外。			

遺構番号	第12号住居址 (SB-12)	遺構挿図番号	第16図		
所産期	奈良時代	遺物挿図番号	第37図		
竪	グリッド	S62・S62W1	電	位置	北壁中央部東寄り(?)
	平面形状	隅丸方形(?)		中央部軸長	
	規模	<3.00> × <2.05>		両袖部内幅	
	主軸方向	N-11°-E		燃焼部形態	
	壁高	0~0.09		煙道	
	壁の立ち上がり	緩やかに立ち上がる		火床	
	床面積	不明		備考	焼土のみ
穴	柱穴				
	周溝				
	備考	北西半部を攪乱に切られる。			

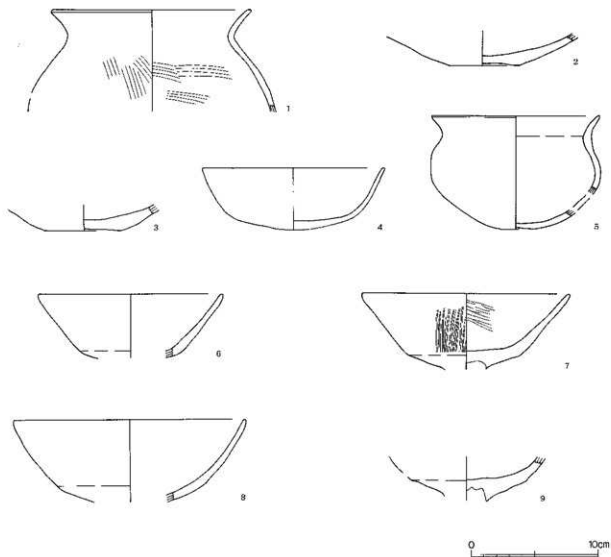
第5表 土坑一覧表

遺構番号	グリッド	平面形	規 模 (m)			断面形	長軸方向	所産期	出土遺物	備考
			長径	短径	深さ					
SK-01	S51W1 S51W2 S52W1 S51W2	略円形	3.10	2.55	1.18	襦鉢状	N-9° - E	古墳時代後期	土師器片 須恵器片	
SK-02	S54W1 S54W2	楕円形	1.38	1.05	0.15	壘 状	N-80° - W	不 明		
SK-03	S55W2	円 形	0.86	0.80	0.38	鍋底状	N-90° - EW	不 明		

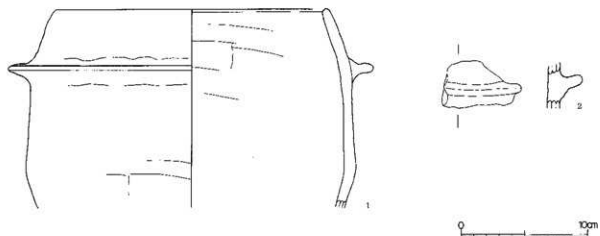
第6表 ビット一覧表

遺構番号	グリッド	平 面 形	規 模 (m)			出 土 遺 物	備 考
			長 径	短 径	深 さ		
P-01	S63W1	略円形	0.58	0.55	0.23		
P-02	S63	円 形	0.65	0.60	0.08		
P-03	S63W1	長円形	0.98	0.85	0.27		二段に掘り込む
P-04	S63W1	円 形	0.23	0.20	0.05		
P-05	S63W1	円 形	0.30	0.26	0.08		
P-06	S63W1	略円形	0.48	0.43	0.06		P-07に切られる
P-07	S63W1	楕円形	0.55	0.40	0.18		P-06を切る
P-08	S63	円 形	0.22	0.19	0.06		
P-09	S63	円 形	0.22	0.22	0.19		
P-10	S61	楕円形	0.28	0.23	0.20		
P-11	S61	楕円形	0.25	0.16	0.21		
P-12	S59	略円形	0.42	0.39	0.37		
P-13	S59	円 形	0.34	0.33	0.05		
P-14	S59W1	円 形	0.31	0.30	0.19		
P-15	S58	略円形	0.28	0.25	0.16		
P-16	S58	円 形	0.16	0.16	0.13		
P-17	S58W1	円 形	0.27	0.25	0.13		
P-18	S58W1	円 形	0.27	0.25	0.29		
P-19	S57W1	略円形	0.40	0.38	0.17		
P-20	S50W1	略円形	0.48	0.46	0.30	土師器片	
P-21	S48	円 形	0.61	0.60	0.28		
P-22	S44	円 形	0.45	0.42	0.14	土師器片	
P-23	S44W1	円 形	0.39	0.36	0.17	土師器片	
P-24	S38W1	楕円形	0.40	0.35	0.21		
P-25	S38W1	略円形	0.35	0.30	0.15		
P-26	S37W1	円 形	0.41	0.39	0.18		
P-27	S36W1	円 形	0.33	0.31	0.18		攪乱で切られる

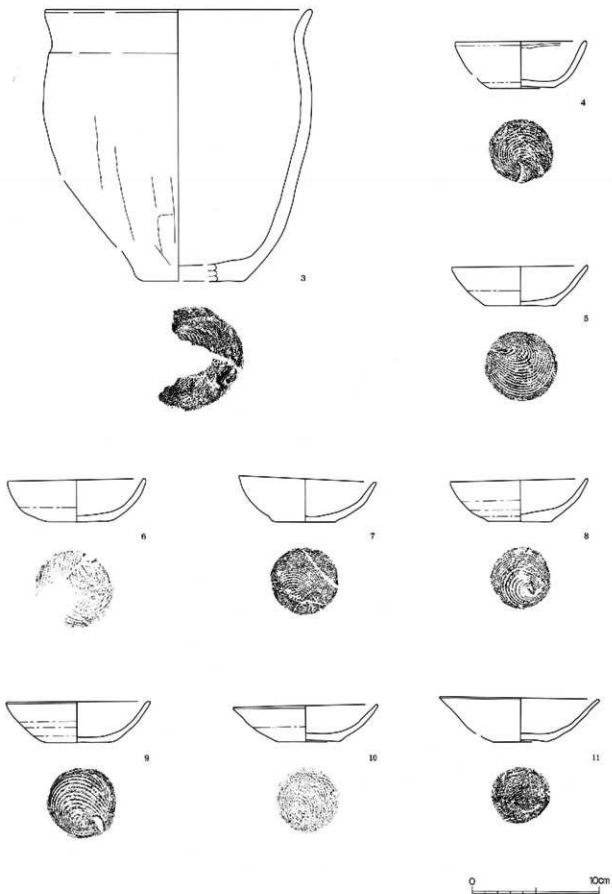
第3節 遺物



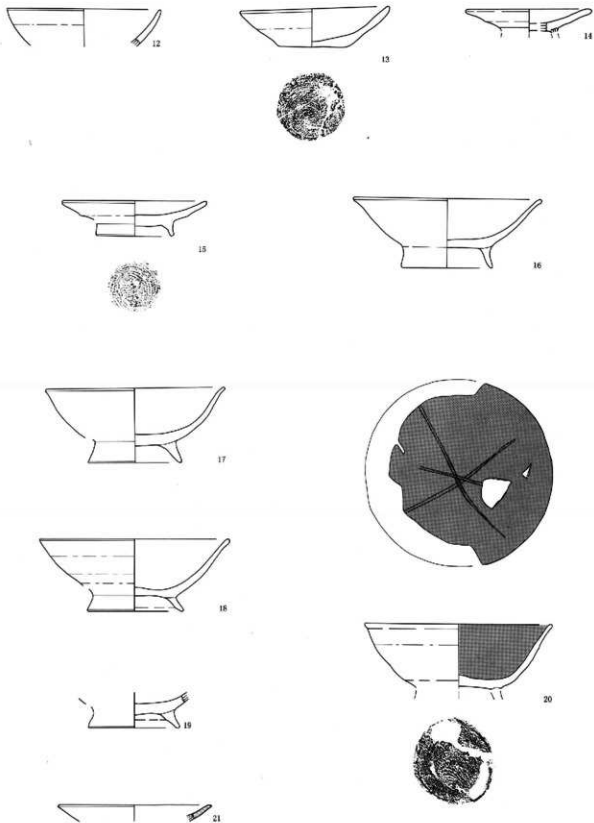
第22圖 第1号住居址出土遺物実測圖



第23圖 第2号住居址出土遺物実測圖(1)

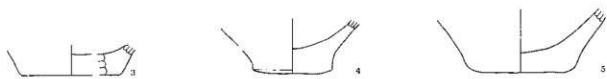
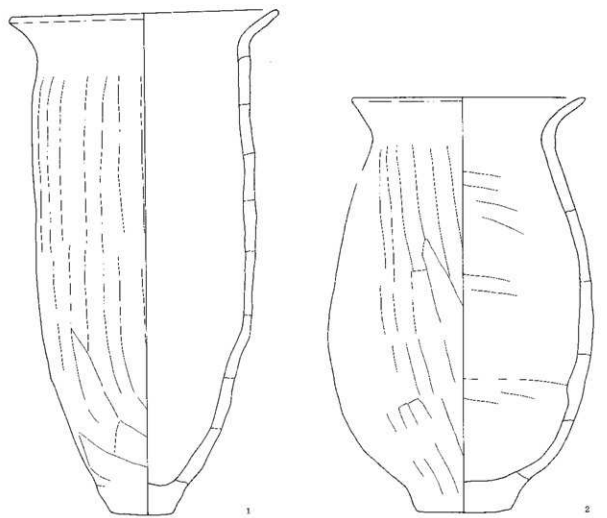


第24図 第2号住居址出土遺物実測図(2)

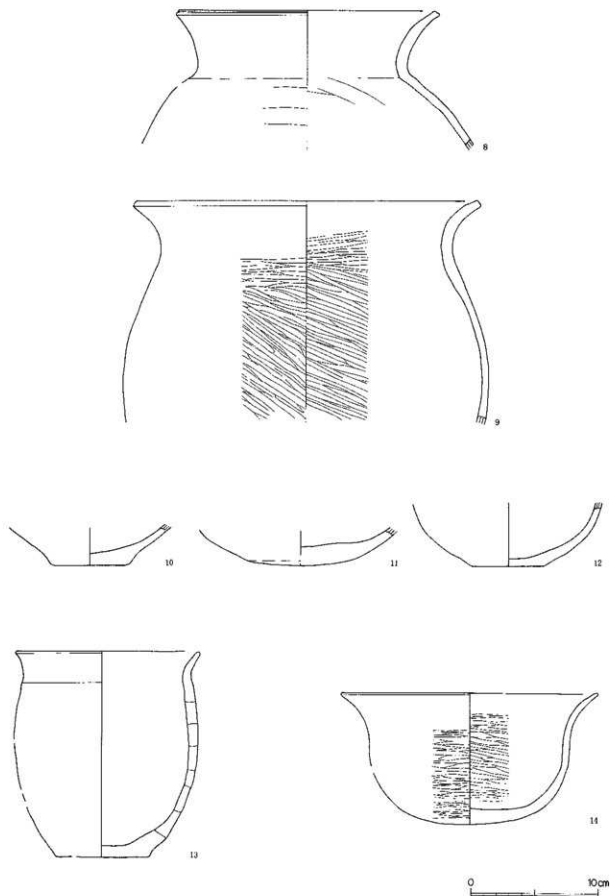


0 10cm

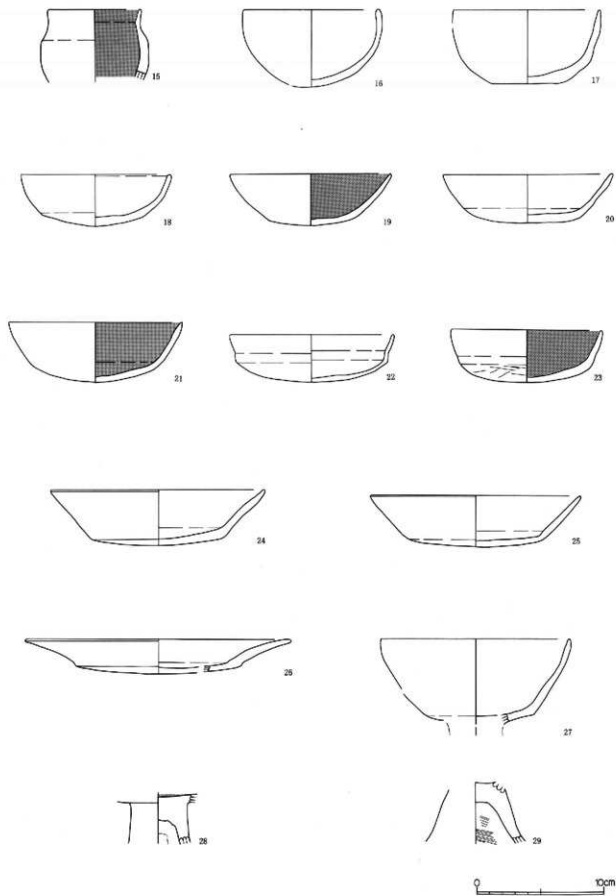
第25图 第2号住居址出土遺物実測図(3)



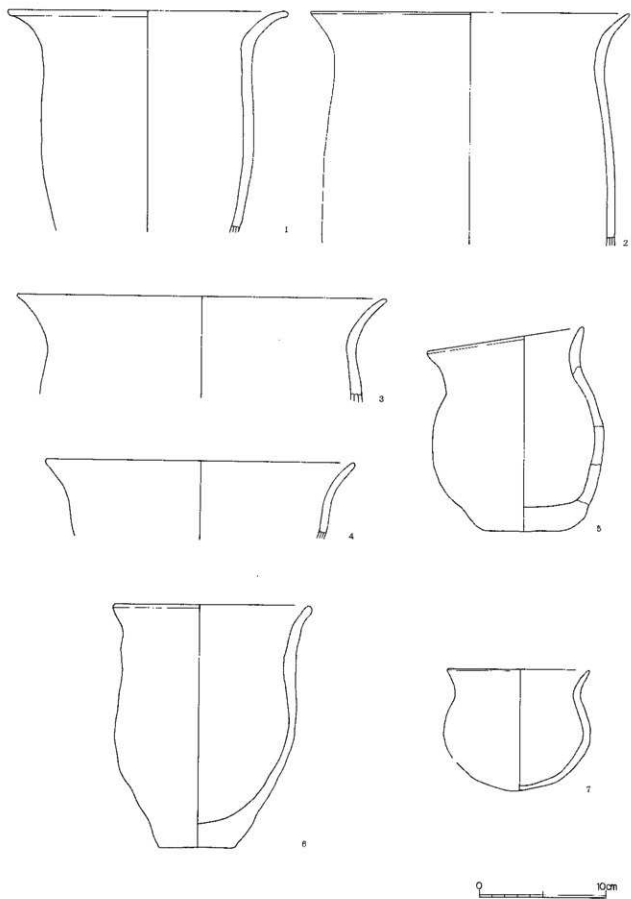
第26图 第5号住居址出土遺物実測図(1)



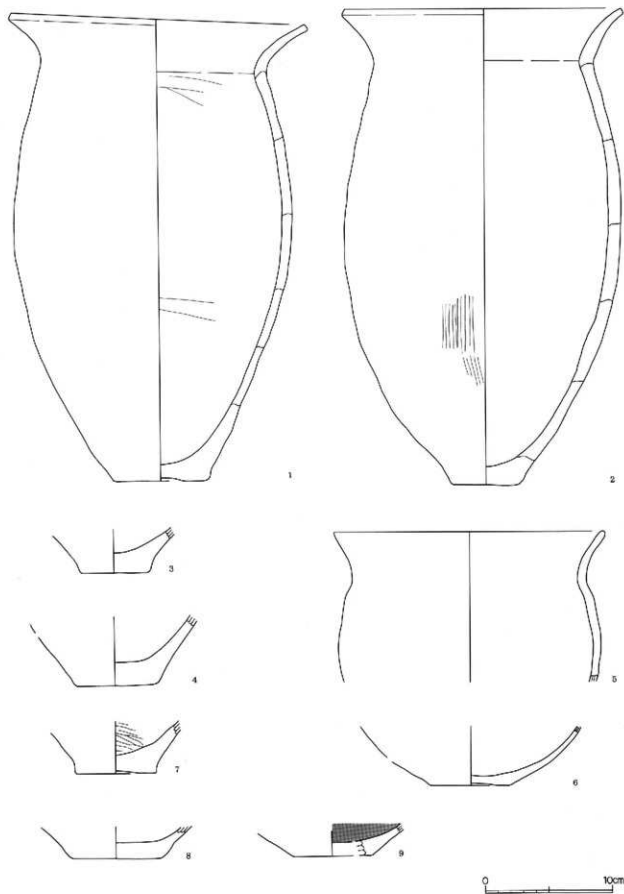
第27圖 第5号住居址出土遺物実測圖(2)



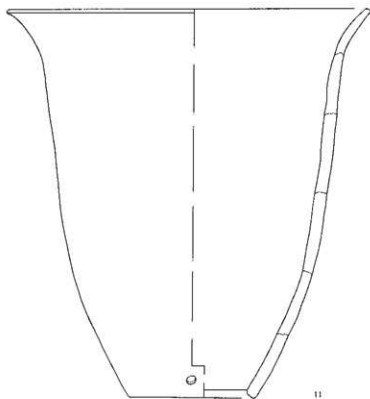
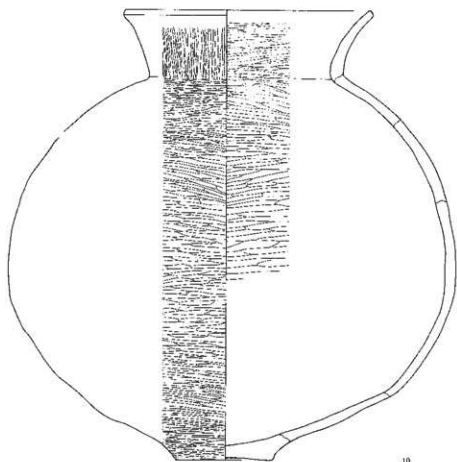
第28图 第5号住居址出土遺物実測図(3)



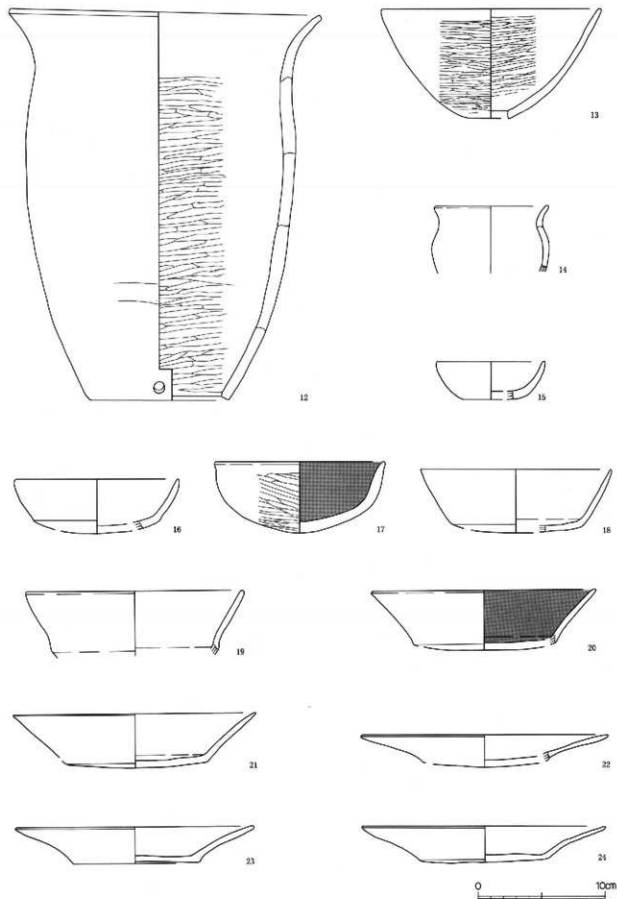
第29图 第7号住居址出土遺物実測図



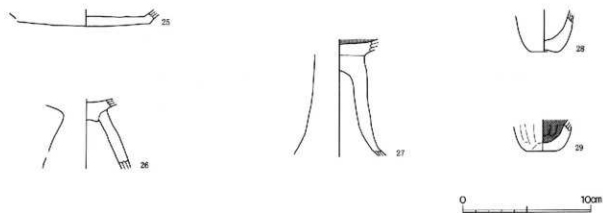
第30图 第8号住居址出土遺物実測図(1)



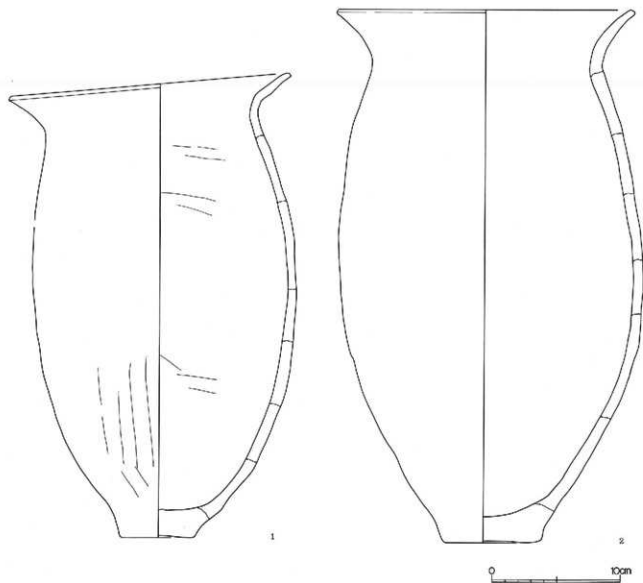
第31图 第8号住居址出土遺物実測図(2)



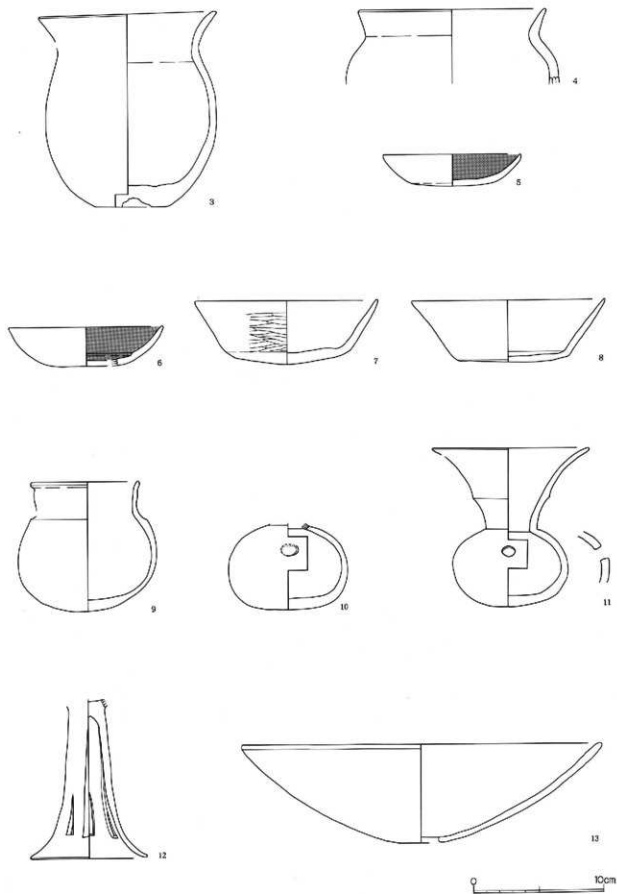
第32图 第8号住居址出土遺物実測図(3)



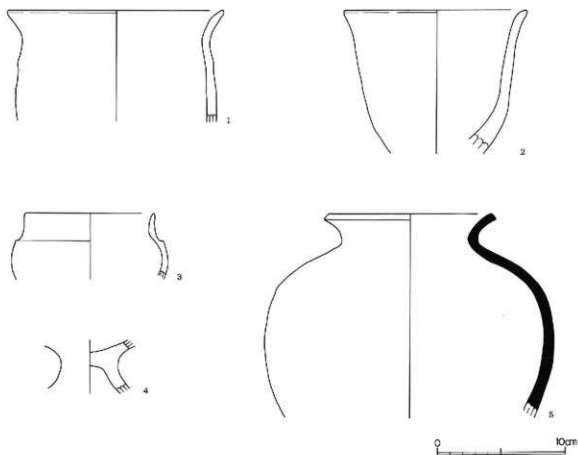
第33图 第8号住居址出土遗物实测图(4)



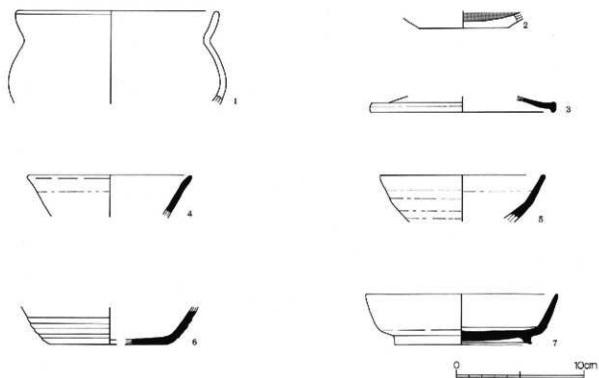
第34图 第10号住居址出土遗物实测图(1)



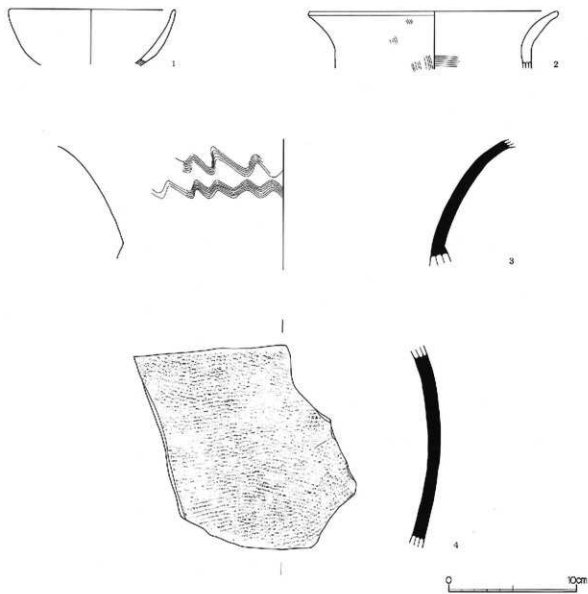
第35图 第10号住居址出土遺物実測図(2)



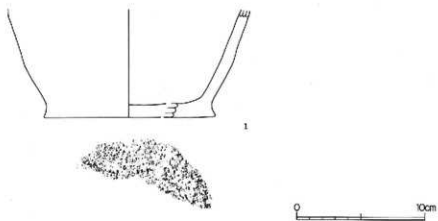
第36图 第11号住居址出土遺物実測図



第37图 第12号住居址出土遺物実測図



第38图 第1号土坑出土遗物实测图



第39图 遺構外出土遺物实测图

第7表 出土遺物観察表(1)

拝図番号	器種	法量・残存率	成形・器形	調整・施文	器質	備考
22-1	土師 甕	口径 15.8 残高 7.9 残存 1/4	口縁部「く」の字状に外反し、体部は球形形跡を呈する。	口縁部横位撫で調整。体外面斜位刷毛調整。体内部横位刷毛調整。	胎：石英・雲母・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)7.5YR8/4 鈍い褐色 (内)10YR6/3 鈍い黄褐色	
22-2	土師 甕	残高 2.7 底径 5.4 残存 1/2	体部は球形に張り、底部は上げ底となる。	外面縦位へラ磨き。内面横位へラ磨き。	胎：石英・雲母・微砂粒を含む 焼：良好 色：(外)N3/0 暗灰色 (内)10YR6/3 鈍い黄褐色	
22-3	土師 甕	残高 2.0 底径 6.3 残存 1/2	体部は球形に張り、底部は上げ底となる。	外面縦位へラ磨き。内面横位へラ磨き。	胎：石英・雲母・微砂粒を含む 焼：良好 色：(外)5Y3/1 オリーブ黒色 (内)7.5YR8/4 鈍い褐色	
22-4	土師 坏	口径 14.2 器高 5.0 底径 — 残存 1/5	丸底より内寄して立ち上がり、口縁部で僅かに外反する。	外面横位撫で調整。内面撫で調整。	胎：石英・雲母・微砂粒を含む 焼：良好 色：(外)7.5YR6/6 褐色 (内)5YR6/6 褐色	
22-5	土師 鉢	口径 13.2 器高 8.9 底径 2.0 残存 1/2	瓢箪形の体部より口縁部「く」の字状に外反する。底部は上げ底。	口縁部横位撫で調整。体部横位へラ磨き＋撫で調整。	胎：石英・雲母・微砂粒を含む 焼：良好 色：(外)2.5YR6/3 褐色 (内)7.5YR7/4 鈍い褐色	
22-6	土師 高坏	口径 14.6 残高 5.0 残存 1/4	坏部外面に稜を持って屈曲し、口縁部内寄する。	口縁部横位撫で調整。坏部縦位刷毛調整＋へラ磨き＋撫で調整。	胎：微砂粒を含む 焼：良好 色：(外)7.5YR8/4 鈍い褐色 (内)7.5YR6/4 鈍い褐色	
22-7	土師 高坏	口径 16.4 残高 6.0 残存 1/2	坏部外面に稜を持って屈曲し、口縁部内寄する。接合部より欠損。	口縁部横位撫で調整。坏部外面縦位へラ磨き。坏部内面横位へラ磨き。	胎：石英・雲母・微砂粒を含む 焼：良好 色：(外)7.5YR6/3 鈍い褐色 (内)10YR5/2 灰黄褐色	
22-8	土師 高坏	口径 18.4 残高 5.8 残存 1/4	坏部外面に稜を持って屈曲し、口縁部内寄する。	坏部外面斜位刷毛調整＋撫で調整。坏部内面横位刷毛調整＋撫で調整。	胎：石英・雲母・微砂粒を含む 焼：良好 色：(外)5YR7/6 褐色 (内)5YR7/6 褐色	
22-9	土師 高坏	残高 3.2 残存 局部残存	坏部屈曲して立ち上がる。接合部より欠損。	外面縦位へラ磨き。内面へラ磨き。	胎：石英・雲母・微砂粒を含む 焼：良好 色：(外)5YR7/6 褐色 (内)5YR6/6 褐色	
23-1	土師 羽釜	口径 21.4 残高 15.5 残存 1/4	体部やや下腹れに張る。	口縁部・跨部横位撫で調整。体部横位へラ削り＋撫で調整。	胎：石英・雲母・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)5YR5/4 鈍い赤褐色 (内)7.5YR5/4 鈍い褐色	床着
23-2	土師 羽釜	残高 3.6		撫で調整。	胎：石英・雲母・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)7.5YR5/4 鈍い褐色 (内)7.5YR5/4 鈍い褐色	
24-3	土師 甕	口径 20.7 器高 21.3 底径 8.0 残存 4/5	口縁部緩く外反する。底部回転糸切り。	輪軸撫で調整。胴部外面縦位へラ削り。	胎：石英・雲母・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)7.5YR5/3 鈍い褐色 (内)7.5YR5/3 鈍い褐色	床着
24-4	土師 坏	口径 10.4 器高 3.6 底径 5.0 残存 1/3	内寄して立ち上がり、口縁部僅かに外反する。底部回転糸切り。	輪軸撫で調整。口縁内面に凹輪状のへラ痕を有する。	胎：石英・雲母・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)10YR7/3 鈍い黄褐色 (内)10YR7/3 鈍い黄褐色	床着
24-5	土師 坏	口径 10.6 器高 3.2 底径 5.5 残存 全存	外面中位に鈍い稜を持ち、口縁部僅かに内寄する。底部回転糸切り。	輪軸撫で調整。	胎：石英・雲母・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)10YR8/3 浅黄褐色 (内)10YR8/3 浅黄褐色	床着
24-6	土師 坏	口径 11.0 器高 3.4 底径 6.0 残存 3/4	口縁部内寄する。底部回転糸切り。	輪軸撫で調整。	胎：石英・雲母・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)7.5YR7/3 鈍い褐色 (内)7.5YR7/4 鈍い褐色	

第8表 出土遺物観察表(2)

標図番号	器種	法量・残存率	成形・器形	調整・施文	器質	備考
24-7	土師 坏	口径 10.9 器高 3.7 底径 5.2 残存 2/3	外面中位に鈍い稜を持ち、口縁部僅かに内湾する。底部回転糸切り。	輪襷無調整。底部に「X」のヘア描きあり。	胎：石英・雲母・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)7.5YR7/4 鈍い褐色 (内)10YR7/3 鈍い黄褐色	床着
24-8	土師 坏	口径 11.0 器高 3.5 底径 5.0 残存 充存	外面中位に鈍い稜を持ち、口縁部僅かに外反する。底部回転糸切り。	輪襷無調整。	胎：石英・雲母・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)10YR7/3 鈍い黄褐色 (内)10YR7/3 鈍い黄褐色	床着
24-9	土師 坏	口径 11.2 器高 3.7 底径 5.7 残存 充存	外面中位に鈍い稜を持ち、口縁部僅かに外反する。底部回転糸切り。	輪襷無調整。	胎：石英・雲母・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)7.5YR7/4 鈍い褐色 (内)10YR7/3 鈍い黄褐色	床着
24-10	土師 坏	口径 11.4 器高 2.9 底径 5.0 残存 3/4	外面中位に鈍い稜を持ち、口縁部僅かに外反する。底部回転糸切り。	輪襷無調整。	胎：石英・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)10YR7/4 鈍い黄褐色 (内)10YR7/4 鈍い黄褐色	
24-11	土師 坏	口径 12.6 器高 3.5 底径 4.5 残存 1/3	底部より内湾して開き、口縁部僅かに外反する。底部回転糸切り。	輪襷無調整。	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)10YR8/3 浅黄褐色 (内)10YR8/3 浅黄褐色	床着
25-12	土師 坏	口径 12.0 残高 3.0 残存 1/4	口縁部僅かに外反する。	輪襷無調整。	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)10YR8/4 鈍い黄褐色 (内)10YR8/4 鈍い黄褐色	
25-13	土師 坏	口径 11.8 器高 3.2 底径 5.4 残存 ほぼ充存	底部より内湾して開き、口縁部僅かに外反する。底部回転糸切り。	輪襷無調整。	胎：石英・雲母・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)7.5YR8/3 鈍い褐色 (内)7.5YR8/4 鈍い褐色	床着
25-14	土師 甕	口径 9.9 器高 1.8 残存 1/4	外面中位に鈍い稜を持ち、口縁部外反する。付け高台欠損。	輪襷無調整。	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)10YR8/4 鈍い黄褐色 (内)10YR8/4 鈍い黄褐色	
25-15	土師 甕	口径 11.4 器高 2.7 底径 6.2 残存 1/3	外面中位に鈍い稜を持ち、口縁部外反する。底部回転糸切り。付け高台外反。	輪襷無調整。	胎：石英・雲母・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)7.5YR7/4 鈍い褐色 (内)7.5YR7/4 鈍い褐色	
25-16	土師 甕	口径 14.8 器高 5.4 底径 7.2 残存 1/4	坏部僅かに内湾して開き、口縁部外反する。付け高台外反する。	輪襷無調整。	胎：礫・粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外)7.5YR7/4 鈍い褐色 (内)7.5YR7/4 鈍い褐色	
25-17	土師 埴	口径 15.0 器高 5.7 底径 7.5 残存 1/4	坏部内湾して開き、口縁部僅かに外反する。付け高台。	輪襷無調整。	胎：礫・粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外)7.5YR7/3 鈍い褐色 (内)6YR5/2 灰オリーブ色	床着
25-18	土師 埴	口径 15.0 器高 5.7 底径 7.5 残存 1/3	坏部内湾して開き、口縁部外反する。付け高台。	輪襷無調整。	胎：礫・粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外)7.5YR7/4 鈍い褐色 (内)10YR8/2 灰黄褐色	床着
25-19	土師 埴	残高 2.8 底径 7.2 残存 図部充存	付け高台。	輪襷無調整。	胎：礫・粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外)6YR6/6 褐色 (内)7.5YR7/6 褐色	
25-20	土師 埴	口径 14.7 残高 5.0 残存 2/3	口縁部玉縁状を呈し、外反する。付け高台欠損。底部回転糸切り。	外面輪襷無調整。内面黒色処理。暗文。	胎：礫・粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外)7.5YR7/4 鈍い褐色 (内)黒色処理	床着
25-21	灰 甕	口径 (12.0) 残高 1.4 残存 1/8	内湾して開き、口縁部外反する。口唇部外面に稜を持つ。	輪襷無調整。内面に施釉。	胎：精良 焼：良好 色：(胎)2.5GY7/1 明チヤ灰色 (輪)淡緑色	

第9表 出土遺物観察表(3)

押図番号	器種	法量・残存率	成形・器形	調整・施文	器質	備考
26-1	土師 甕	口径 21.2 器高 39.7 底径 4.8 残存 2/3	口縁部「く」の字状に外反する。胴部は砲弾状を呈する。底部平底。	口縁部横位撫で調整。胴外面縦位へラ削り。胴内面横位へラ削り+撫で調整。	胎:石英・雲母・粗砂粒を含む 焼:良好 色:(外)7.5YR8/6 浅黄褐色 (内)7.5YR6/4 鈍い褐色	床着 電
26-2	土師 甕	口径 18.2 器高 32.8 底径 7.4 残存 3/4	口縁部「く」の字状に外反する。胴部はやや下腹けの卵球形を呈する。底部平底。	口縁部横位撫で調整。胴外面縦・斜位へラ削り。内面横位へラ削り+撫で調整。	胎:石英・雲母・粗砂粒を含む 焼:良好 色:(外)5YR5/5 鈍い赤褐色 (内)7.5YR6/4 鈍い褐色	
26-3	土師 甕	残高 2.4 底径 (8.4) 残存 1/4	平底。		胎:粗砂粒を含む 焼:良好 色:(外)10YR7/3 鈍い黄褐色 (内)10YR7/3 鈍い黄褐色	
26-4	土師 甕	残高 4.2 底径 6.4 残存 図部完存	平底。	へラ削り。	胎:礫・粗砂粒を含む 焼:良好 色:(外)5YR5/6 明赤褐色 (内)5YR4/2 灰褐色	
26-5	土師 甕	残高 5.0 底径 8.2 残存 2/3	平底。	へラ削り。	胎:細砂粒を含む 焼:良好 色:(外)5YR5/4 鈍い赤褐色 (内)5YR6/6 褐色	
26-6	土師 甕	残高 6.5 底径 7.3 残存 1/4	平底。	へラ削り。	胎:礫・粗砂粒を含む 焼:良好 色:(外)5YR6/6 褐色 (内)7.5YR7/4 鈍い褐色	
26-7	土師 甕	口径 21.2 残高 6.3 残存 1/4	口縁部「く」の字状に外反。口唇部に面取りを施す。球形胴を呈する。	口縁部横位撫で調整。胴外面横位へラ削り。胴内面撫で調整。面取り部に凹溝。	胎:細砂粒を含む 焼:良好 色:(外)10YR4/1 褐灰色 (内)10YR7/3 鈍い黄褐色	
27-8	土師 甕	口径 20.0 残高 10.5 残存 図部完存	口縁部「く」の字状に外反。口唇部に面取りを施す。球形胴を呈する。	口縁部横位撫で調整。胴外内面横位へラ削り。面取り部に凹溝。	胎:細砂粒を含む 焼:良好 色:(外)7.5YR7/3 鈍い褐色 (内)7.5YR7/3 鈍い褐色	
27-9	土師 甕	口径 27.2 残高 17.3 残存 1/4	胴部はやや下腹けに張り、口縁部緩く外反する。口唇部に面取りを施す。	口縁部横位撫で調整。胴外内面横・斜位へラ磨き。	胎:微砂粒を含む 焼:良好 色:(外)5YR7/4 鈍い褐色 (内)7.5YR6/3 鈍い褐色	床着
27-10	土師 甕	残高 3.0 底径 6.3 残存 1/2	平底。	外面撫で調整。内面へラ削り+撫で調整。	胎:石英・雲母・粗砂粒を含む 焼:良好 色:(外)7.5YR4/3 褐色 (内)5YR6/6 褐色	
27-11	土師 甕	残高 2.4 底径 - 残存 図部完存	平底に近い丸底。	外面横位へラ削り。内面横位へラ削り+撫で調整。	胎:石英・雲母・細砂粒を含む 焼:良好 色:(外)N3/0 黒色 (内)7.5YR6/3 鈍い褐色	電
27-12	土師 甕	残高 5.0 底径 5.7 残存 1/2	球形胴を呈する。平底。	外面縦位へラ磨き。内面横位へラ磨き+撫で調整。	胎:微砂粒を含む 焼:良好 色:(外)10YR7/3 鈍い黄褐色 (内)7.5YR7/3 鈍い褐色	
27-13	土師 甕	口径 14.5 器高 16.2 底径 7.4 残存 4/5	口縁部は下位に段を持ち、緩く外反する。平底。	口縁部横位撫で調整。胴外内面撫で調整。	胎:礫・粗砂粒を含む 焼:良好 色:(外)7.5YR7/3 鈍い褐色 (内)10YR6/2 灰黄褐色	電
27-14	土師 鉢	口径 20.3 器高 10.3 底径 - 残存 1/4	体部半球形を呈し、口縁部緩く外反する。丸底。	口縁部横位撫で調整。体部外内面横位へラ磨き。	胎:微砂粒を含む 焼:良好 色:(外)5YR7/6 褐色 (内)5YR7/6 褐色	
28-15	土師 蓋	口径 (7.2) 残高 5.7 残存 1/4	口縁部直立気味に立ち上がる。	口縁部横位撫で調整。体部外内面横位へラ磨き。	胎:細砂粒を含む 焼:良好 色:(外)7.5YR6/6 褐色 (内)黒色処理	

第10表 出土遺物観察表(4)

押図番号	器種	法量・残存率	成形・器形	調整・施文	器質	備考
28-16	土師 埴	口径 10.6 器高 6.1 底径 — 残存 1/4	底部から口縁部にかけて内弯する。丸底。	口縁部横立撫で調整。底部へラ削り。	胎: 細砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5YR7/6 橙色 (内)5YR7/6 橙色	
28-17	土師 埴	口径 11.8 器高 5.8 底径 5.4 残存 3/4	底部から口縁部にかけて内弯する。平底。	外面横立へラ削り+撫で調整。内面横立撫で調整。底部へラ削り。	胎: 細砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)2.5YR6/4 鈍い橙色 (内)10YR5/2 灰黄褐色	
28-18	土師 坏	口径 11.8 器高 4.1 底径 — 残存 1/2	丸底の底部外面に稜を持ち、口縁部は内弯する。	口縁部横立撫で調整。底部へラ削り。	胎: 微砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5YR7/4 鈍い橙色 (内)7.5YR6/4 鈍い橙色	
28-19	土師 坏	口径 12.6 器高 4.1 底径 — 残存 1/6	口縁部僅かに内弯する。丸底。	口縁部横立撫で調整。底部へラ削り。内面黒色処理。	胎: 微砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)2.5YR6/3 鈍い黄色 (内)黒色処理	
28-20	土師 坏	口径 13.3 器高 3.8 底径 — 残存 3/4	口縁部僅かに内弯する。丸底。	口縁部横立撫で調整。底部へラ削り。	胎: 微・細砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)10YR7/3 鈍い黄褐色 (内)7.5YR7/4 鈍い橙色	
28-21	土師 坏	口径 13.6 器高 4.7 底径 — 残存 1/4	口縁部僅かに内弯する。丸底。	口縁部横立撫で調整。底部へラ削り。内面黒色処理。	胎: 細砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5YR3/1 オリーブ黒色 (内)黒色処理	
28-22	土師 坏	口径 13.0 器高 3.8 底径 — 残存 1/4	丸底の底部から屈曲して外傾し、口縁部は内弯する。	横立撫で調整。	胎: 微・細砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)7.5YR6/6 橙色 (内)5YR6/6 橙色	
28-23	土師 坏	口径 12.0 器高 4.2 底径 — 残存 2/3	丸底から外面に段を持って立ち上がり、口縁部内弯する。	口縁部横立撫で調整。底部へラ削り。内面黒色処理。	胎: 微・細砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)7.5YR4/1 黄灰色 (内)黒色処理	
28-24	土師 坏	口径 16.9 器高 4.3 底径 — 残存 1/3	浅い丸底の底部から屈曲して立ち上がり、口縁部は外反する。	横立へラ磨き+撫で調整。	胎: 石英・微砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)7.5YR7/4 鈍い橙色 (内)7.5YR7/4 鈍い橙色	
28-25	土師 坏	口径 16.6 器高 4.0 底径 — 残存 1/4	浅い丸底の底部から屈曲して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横立撫で調整。	胎: 粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5YR7/6 橙色 (内)5YR6/6 橙色	
28-26	土師 甗	口径 (21.0) 器高 (2.8) 底径 — 残存 1/6	浅い丸底の底部から屈曲して開き、口縁部外反する。	口縁部横立撫で調整。底部へラ削り。	胎: 石英・雲母・細砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)7.5YR6/4 鈍い橙色 (内)7.5YR6/3 鈍い橙色	
28-27	土師 高坏	口径 (14.8) 器高 6.7 残存 2/3	坏部外面に稜を持って立ち上がり、口縁部内弯する。	外面へラ削り+撫で調整。内面へラ磨き+撫で調整。	胎: 細砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)10YR7/3 鈍い黄褐色 (内)10YR7/3 鈍い黄褐色	
28-28	土師 高坏	残高 3.6 残存 器部完存	接合部。脚部は柱状を呈する。	外面縦立へラ削り+撫で調整。脚内面横立へラ削り。坏内面黒色処理。	胎: 細砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)7.5YR6/4 鈍い橙色 (内)黒色処理	
28-29	土師 高坏	残高 4.8 残存 1/2	接合部。脚部は短く開く。	外面縦立へラ磨き+撫で調整。脚内面横立別毛調整。	胎: 微・細砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5YR6/4 鈍い橙色 (内)5YR4/1 灰色	
29-1	土師 甗	口径 (26.0) 器高 17.3 残存 1/4	口縁部緩く外反する。胴部の張りは弱く筒状を呈する。	口縁部横立撫で調整。胴外面へラ削り+撫で調整。	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)7.5YR3/2 黒褐色 (内)7.5YR3/4 暗褐色	

第11表 出土遺物観察表(5)

挿図番号	器種	法量・残存率	成形・器形	調整・施文	器質	備考
29-2	土師 甕	口径 (25.3) 残高 18.2 残存 1/5	口縁部緩く外反する。胴部の張りは弱く筒状を呈する。	口縁部横位撫で調整。 胴外内面撫で調整。	胎: 細砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)7.5YR5/6 鈍い褐色 (内)7.5YR6/4 鈍い褐色	
29-3	土師 甕	口径 (29.0) 残高 8.0 残存 1/5	口縁部緩く外反する。	口縁部横位撫で調整。 胴外内面撫で調整。	胎: 細砂粒を多く含む 焼: 良好 色: (外)7.5YR3/6 褐色 (内)7.5YR3/6 褐色	
29-4	土師 甕	口径 (24.2) 残高 6.1 残存 1/8	口縁部緩く外反する。	口縁部横位撫で調整。 胴外内面撫で調整。	胎: 細砂粒を多く含む 焼: 良好 色: (外)5YR6/6 褐色 (内)5YR6/6 褐色	
29-5	土師 甕	口径 12.2 器高 16.2 底径 6.8 残存 7/8	胴部やや肩が張り、口縁部緩く外反する。平底。	口縁部横位撫で調整。 胴外内面撫で調整。	胎: 礫・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)7.5YR7/4 鈍い褐色 (内)5YR6/4 鈍い褐色	床着
29-6	土師 甕	口径 15.4 器高 19.1 底径 6.9 残存 田式完存	張りのない胴部より口縁部緩く外反する。平底。	口縁部横位撫で調整。 胴外内面撫で調整。	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5YR6/4 鈍い褐色 (内)7.5YR6/4 鈍い褐色	床着
29-7	土師 甕	口径 11.2 器高 9.5 底径 — 残存 1/2	扁球形の体部から口縁部短く外反する。丸底。	口縁部横位撫で調整。 外面横位へラ磨き+撫で調整。内面撫で調整。	胎: 微砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5YR4/2 灰褐色 (内)5YR6/4 鈍い褐色	床着
30-1	土師 甕	口径 23.3 器高 36.4 底径 7.4 残存 田式完存	口縁部「く」の字状に外反し、肩部面取り。胴部は卵球形を呈する。平底。	口縁部横位撫で調整。 胴外内面へラ削り+撫で調整。	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5YR5/4 鈍い赤褐色 (内)5YR5/4 鈍い赤褐色	床着
30-2	土師 甕	口径 22.0 器高 37.5 底径 5.6 残存 田式完存	口縁部緩く外反し、端面面取り。胴部は卵球形を呈する。底部は平底。	口縁部横位撫で調整。 胴外内面刷毛調整+撫で調整。	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)2.5YR4/4 灰褐色 (内)2.5YR6/6 褐色	床着
30-3	土師 甕	残高 3.5 底径 5.4 残存 1/2	平底。		胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)2.5YR5/6 明赤褐色 (内)5YR5/6 明赤褐色	
30-4	土師 甕	残高 5.5 底径 6.4 残存 5/6	平底。	外面横位へラ削り。内面横位へラ削り+撫で調整。	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5YR6/4 鈍い褐色 (内)5YR6/6 褐色	
30-5	土師 甕	口径 21.4 残高 11.9 残存 1/3	口縁部緩く外反し、胴部は僅かに張る。	口縁部横位撫で調整。 胴外内面横位へラ磨き+撫で調整。	胎: 礫・細砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5YR6/6 褐色 (内)5YR6/6 褐色	甕 30-6 と同一 固体?
30-6	土師 甕	残高 4.6 底径 6.2 残存 4/5	底部上打底。	外内面横位へラ磨き+撫で調整。	胎: 礫・細砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5YR6/6 褐色 (内)5YR6/6 褐色	甕 30-5 と同一 固体?
30-7	土師 甕	残高 4.1 底径 6.4 残存 1/3	平底。	外内面へラ削り。	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)7.5YR5/4 鈍い褐色 (内)5YR6/6 褐色	
30-8	土師 甕	残高 2.5 底径 7.0 残存 1/5	平底。	撫で調整。	胎: 石英・雲母・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)10YR7/2 鈍い黄褐色 (内)10YR7/3 鈍い黄褐色	
30-9	土師 甕	残高 2.3 底径 6.0 残存 1/2	平底。	外面へラ削り。内面黒色処理。	胎: 礫・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)7.5YR7/4 鈍い褐色 (内)黒色処理	

第12表 出土遺物観察表(6)

神田番号	器種	法量・残存率	成形・器形	調整・施文	器質	備考
3 1-10	土師 甕	口径 18.8 器高 35.4 底径 7.6 残存 7/8	口縁部「く」の字状に外反し端部面取り。 胴部は球形に張る。 底部僅かに上げ底。	口縁部外面縦位へラ磨き。胴外面横位へラ磨き。内面横位へラ磨き。	胎:石英・雲母・微砂粒を含む 焼:良好 色:(外)5YR7/6 橙色 (内)5YR5/4 鈍い赤褐色	床着
3 1-11	土師 甕	口径 28.2 器高 30.7 底径 9.8 残存 ほぼ完全	口縁部僅かに外反し、端部面取り。胴部は筒状。底部付近に一對の孔を持つ。	口縁部横立無で調整。胴外内面横位へラ磨き+撫で調整。	胎:石英・雲母・微砂粒を含む 焼:良好 色:(外)7.5YR7/6 橙色 (内)7.5YR7/6 橙色	床着
3 2-12	土師 甕	口径 23.8 器高 30.5 底径 10.2 残存 ほぼ完全	口縁部僅かに外反し、端部面取り。胴部は筒状。底部付近に一對の孔を持つ。	口縁部横立無で調整。胴外内面横位へラ磨き。	胎:石英・雲母・微砂粒を含む 焼:良好 色:(外)5YR6/6 橙色 (内)2.5YR6/6 褐色	床着
3 2-13	土師 甕	口径 17.2 器高 8.5 底径 3.2 残存 完全	底部から口縁部にかけて内弯する。底部に1孔を持つ。	口縁部横立無で調整。体外内面横位別毛調整+横位へラ磨き。	胎:石英・雲母・微砂粒を含む 焼:良好 色:(外)5YR7/6 橙色 (内)5YR6/6 褐色	床着
3 2-14	土師 甕	口径 9.0 残高 5.2 残存 1/3	口縁部「く」の字状に短く外反する。	口縁部横立無で調整。体外内面横立無で調整。	胎:細砂粒を含む 焼:良好 色:(外)7.5YR5/4 鈍い褐色 (内)10YR4/2 灰黄褐色	床着
3 2-15	土師 甕	口径 8.4 器高 3.0 底径 - 残存 1/3	底部から口縁部にかけて内弯する。丸底。	外面撫で調整。内面横位へラ磨き+撫で調整。	胎:石英・雲母・微砂粒を含む 焼:良好 色:(外)7.5YR6/4 鈍い褐色 (内)7.5YR6/4 鈍い褐色	床着
3 2-16	土師 甕	口径 12.8 器高 (4.8) 底径 - 残存 1/4	丸底の底部外面に稜を持ち、口縁部は内弯する。	口縁部横立無で調整。体外内面横位へラ磨き+撫で調整。	胎:石英・雲母・微砂粒を含む 焼:良好 色:(外)5YR5/4 鈍い赤褐色 (内)7.5YR5/3 鈍い褐色	床着
3 2-17	土師 甕	口径 13.4 器高 5.8 底径 - 残存 1/3	丸底の底部から内弯して立ち上がり、口縁部僅かに外反する。	口縁部横立無で調整。体外内面横位へラ磨き。内面黒色処理。	胎:石英・雲母・微砂粒を含む 焼:良好 色:(外)5YR6/4 鈍い褐色 (内)黒色処理	床着
3 2-18	土師 甕	口径 15.4 器高 5.0 底径 - 残存 3/4	浅い丸底の底部から屈曲して立ち上がり、口縁部僅かに外反する。	口縁部横立無で調整。底部へラ削り。	胎:細砂粒を含む 焼:良好 色:(外)5YR6/6 褐色 (内)5YR6/6 褐色	床着
3 2-19	土師 甕	口径 (17.0) 残高 5.2 残存 1/4	底部から屈曲外反して立ち上がり、口縁部僅かに内弯する。	口縁部横立無で調整。	胎:石英・雲母・微砂粒を含む 焼:良好 色:(外)7.5YR6/4 鈍い褐色 (内)5YR6/6 褐色	床着
3 2-20	土師 甕	口径 17.8 器高 (4.8) 底径 - 残存 1/3	浅い丸底の底部から屈曲して立ち上がり、口縁部外反する。	口縁部横立無で調整。体外内面横位へラ磨き。内面黒色処理。	胎:石英・雲母・微砂粒を含む 焼:良好 色:(外)7.5YR7/4 鈍い褐色 (内)黒色処理	甕
3 2-21	土師 甕	口径 19.0 器高 4.3 底径 - 残存 1/3	浅い丸底の底部から屈曲して開き、口縁部外反する。	口縁部横立無で調整。底部へラ削り。	胎:石英・雲母・微砂粒を含む 焼:良好 色:(外)5YR6/4 鈍い褐色 (内)5YR6/4 鈍い褐色	床着
3 2-22	土師 甕	口径 19.6 器高 (2.5) 底径 - 残存 1/3	浅い丸底の底部から屈曲して開き、口縁部外反する。	口縁部横立無で調整。	胎:石英・雲母・微砂粒を含む 焼:良好 色:(外)5YR6/6 褐色 (内)5YR6/6 褐色	床着
3 2-23	土師 甕	口径 18.8 器高 2.9 底径 9.8 残存 2/3	僅かに上げ底の底部から屈曲して開き、口縁部外反する。	口縁部横立無で調整。底部へラ削り。	胎:石英・雲母・微砂粒を含む 焼:良好 色:(外)5YR6/6 褐色 (内)5YR6/4 鈍い褐色	床着
3 2-24	土師 甕	口径 19.2 器高 2.9 底径 - 残存 ほぼ完全	浅い丸底の底部から屈曲して開き、口縁部外反する。	口縁部横立無で調整。底部へラ削り。	胎:石英・雲母・微砂粒を含む 焼:良好 色:(外)5YR6/6 褐色 (内)5YR6/6 褐色	床着

第13表 出土遺物観察表(7)

揮図番号	器種	法量・残存率	成形・器形	調整・施文	器質	備考
33-25	土師 皿	残高 1.1 底径 — 残存 図部充存	浅い丸底の底部。	底部ヘラ削り。	胎：石英・雲母・微砂粒を含む 焼：良好 色：(外)2.5YR6/6 橙色 (内)5YR6/6 褐色	床着
33-26	土師 高坏	残高 6.4 残存 図部充存	接合部。脚部は僅かに内弯しながら開く。	外面縦位ヘラ磨き。脚内面横位ヘラ削り。	胎：礫・細砂粒を含む 焼：良好 色：(外)10YR6/3 鈍い黄褐色 (内)7.5YR6/3 鈍い褐色	
33-27	土師 高坏	残高 9.2 残存 図部充存	接合部。脚部は柱状を呈し、裾部で大きく開く。	外面縦位ヘラ削り+撫で調整。脚内面撫で調整。杯内面黒色処理。	胎：細砂粒を含む 焼：良好 色：(外)5YR7/4 鈍い褐色 (内)黒色処理	
33-28	土師 手提ね	残高 3.2 底径 2.2 残存 1/2	底部僅かに上げ底。体部内弯する。	外面撫で調整。内面刷毛調整+撫で調整	胎：微砂粒を含む 焼：良好 色：(外)7.5YR7/4 鈍い褐色 (内)7.5YR6/4 鈍い褐色	
33-29	土師 手提ね	残高 2.4 底径 2.4 残存 1/2	体部内弯し、口縁部僅かに外反する。平底。	外面縦位ヘラ削り。内面指頭圧痕。黒色処理。	胎：微砂粒を含む 焼：良好 色：(外)7.5YR7/3 鈍い褐色 (内)黒色処理	
34-1	土師 甕	口径 23.0 器高 33.7 底径 5.8 残存 7/8	口縁部「く」の字状に外反し、端部面取り。胴部は卵球形を呈する。底部平底。	口縁部横位撫で調整。胴外内面ヘラ削り+撫で調整。	胎：石英・雲母・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)5YR5/6 明赤褐色 (内)5YR4/2 灰褐色	甕
34-2	土師 甕	口径 23.2 器高 42.2 底径 7.5 残存 ほぼ充存	口縁部緩く外反し、胴部は卵球形を呈する。底部は平底。	口縁部横位撫で調整。胴外内面ヘラ削り+撫で調整。	胎：石英・雲母・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)5YR5/6 明赤褐色 (内)5YR5/6 明赤褐色	床着 甕
35-3	土師 甕	口径 13.8 器高 15.2 底径 5.6 残存 ほぼ充存	丸味を持った胴部から口縁部緩く外反する。平底。	口縁部横位撫で調整。胴外面縦位ヘラ削り+撫で調整。胴内面撫で調整。	胎：石英・雲母・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)7.5YR6/8 褐色 (内)7.5YR6/6 褐色	床着
35-4	土師 甕	口径 14.4 残高 5.9 残存 1/4	口縁部「く」の字状に外反する。胴部は球形を呈する。	口縁部横位撫で調整。胴外内面撫で調整。	胎：石英・雲母・細砂粒を含む 焼：良好 色：(外)7.5YR5/8 明赤褐色 (内)7.5YR5/1 褐色	甕
35-5	土師 坏	口径 (10.7) 器高 — 底径 — 残存 1/4	底部から口縁部にかけて内弯する。丸底。	口縁部横位撫で調整。外内面横位ヘラ磨き。底部ヘラ削り。内面黒色処理。	胎：石英・雲母・微砂粒を含む 焼：良好 色：(外)5YR3/1 オリーブ黒色 (内)黒色処理	
35-6	土師 坏	口径 (12.0) 器高 3.1 底径 — 残存 1/8	底部から口縁部にかけて内弯する。丸底。	口縁部横位撫で調整。外内面横位ヘラ磨き。底部ヘラ削り。内面黒色処理。	胎：石英・雲母・細砂粒を含む 焼：良好 色：(外)10Y7/3 鈍い黄褐色 (内)黒色処理	
35-7	土師 坏	口径 14.4 器高 5.0 底径 — 残存 充存	浅い丸底の底部から屈曲して開き、口縁部外反する。	口縁部横位撫で調整。外面横位ヘラ磨き。内面撫で調整。	胎：石英・礫・細砂粒を含む 焼：良好 色：(外)5YR6/8 褐色 (内)5YR6/8 褐色	床着
35-8	土師 坏	口径 15.0 器高 4.8 底径 — 残存 3/4	浅い丸底の底部から屈曲して開き、口縁部外反する。	口縁部横位撫で調整。外内面横位ヘラ磨き+撫で調整。底部ヘラ削り。	胎：石英・礫・細砂粒を含む 焼：良好 色：(外)7.5YR6/6 褐色 (内)7.5YR6/6 褐色	
35-9	土師 壺	口径 8.2 器高 10.2 底径 — 残存 ほぼ充存	口縁部直立気味に立ち上がり、端部で外反する。体部は偏球形を呈する。	口縁部横位撫で調整。体部外内面横位ヘラ磨き+撫で調整。	胎：礫・細砂粒を含む 焼：良好 色：(外)7.5YR7/6 褐色 (内)7.5YR7/6 褐色	床着 甕
35-10	土師 甕	残高 6.8 底径 — 残存 1/2	偏球形を呈する体上半部に1孔を持つ。丸底。	外面横位ヘラ磨き。内面撫で調整。	胎：細砂粒を含む 焼：良好 色：(外)5YR6/6 褐色 (内)5YR7/6 褐色	床着

第14表 出土遺物観察表(8)

標図番号	器種	法量・残存率	成形・器形	調整・施文	器質	備考
35-11	土師 甕	口径 (12.2) 器高 12.6 底径 — 残存 一部欠損	偏球形を呈する体上半部に1孔を持つ。口縁部は2段に外反する。丸底。	口縁部横立撫で調整。体外面横立ヘラ磨き。体外面撫で調整。	胎: 細砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5YR6/6 橙色 (内)5YR6/6 橙色	床着
35-12	土師 高杯	残高 12.5 底径 9.2 残存 1/3	長く伸びて根部で大きく開く脚部。長短の三角形透かし意を3ヶ所ずつ穿つ。	撫で調整。	胎: 細砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5YR6/6 橙色 (内)5YR6/6 橙色	
35-13	土師 甌	口径 27.8 器高 7.8 底径 7.0 残存 1/2	底部から口縁部にかけて僅かに内弯しながら大きく開く。底部に1孔を持つ。	外面横立ヘラ削り+横立ヘラ磨き。内面横立ヘラ磨き+撫で調整。	胎: 微砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5YR6/6 橙色 (内)5YR6/6 橙色	床着
36-1	土師 甕	口径 16.8 残高 8.8 残存 2/3	筒状を呈する胴部より口縁部緩く外反する。	口縁部横立撫で調整。胴外内面ヘラ削り+撫で調整。	胎: 微・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)7.5YR7/4 鈍い橙色 (内)7.5YR7/4 鈍い橙色	
36-2	土師 甌	口径 14.4 残高 11.3 残存 2/3	体部膨張状を呈し、口縁部僅かに外反する。	口縁部横立撫で調整。胴外内面ヘラ削り+撫で調整。	胎: 微・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5YR6/6 橙色 (内)5YR6/6 橙色	
36-3	土師 壺	口径 10.0 残高 5.2 残存 1/4	口縁部直立気味に立ち上がる。体部は偏球形を呈する。	口縁部横立撫で調整。体部外内面横立ヘラ磨き+撫で調整。	胎: 微・微砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5YR6/6 橙色 (内)5YR6/6 橙色	
36-4	土師 高杯	残高 4.2 残存 図部完存	接合部。脚部は大きく開く。	外面横立ヘラ削り。内面撫で調整。	胎: 微・粗砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5YR6/4 鈍い橙色 (内)10YR7/4 鈍い黄褐色	
36-5	須恵 壺	口径 12.6 残高 16.0 残存 2/3	肩の張った胴部から口縁部短く外反し、端部に面取りを施す。	横立撫で調整。	胎: 微・細砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)7.5Y5/1 灰色 (内)7.5Y5/1 灰色	
37-1	土師 甕	口径 (15.6) 残高 7.3 残存 1/5	張りのある胴部から口縁部「く」の字状に外反し、僅かに内弯して、端部面取り。	口縁部横立撫で調整。胴外内面ヘラ削り+撫で調整。	胎: 微・細砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5YR6/6 橙色 (内)5YR6/4 鈍い橙色	
37-2	土師 杯	残高 1.3 底径 7.0 残存 1/8	底部ヘラ切り。	内面ヘラ磨き+黒色処理。	胎: 微・微砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)7.5YR4/4 褐色 (内)黒色処理	
37-3	須恵 蓋	残高 1.2 柄径 (14.8) 残存 1/8	握端部を下方に折り曲げる。	輪軸撫で調整。	胎: 微砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5G4/1 暗緑灰色 (内)5G4/1 暗緑灰色	
37-4	須恵 杯	口径 12.8 残高 3.3 残存 1/8	体部内弯し、口縁部僅かに外反する。外内面に火染。	輪軸撫で調整。	胎: 微砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)10G4/1 暗緑灰色 (内)10G4/1 暗緑灰色	
37-5	須恵 杯	口径 13.0 残高 3.7 残存 1/4	体部内弯する。外内面に火染。	輪軸撫で調整。	胎: 微・微砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)2.5Y8/1 黄灰色 (内)2.5Y8/1 黄灰色	
37-6	須恵 杯	残高 2.9 底径 9.0 残存 1/5	体部僅かに内弯する。底部ヘラ切り。	外面回転ヘラ削り。内面輪軸撫で調整。	胎: 微砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)5Y8/1 灰色 (内)5Y8/1 灰色	
37-7	須恵 杯	口径 15.0 器高 4.0 底径 10.5 残存 一部欠損	体部直線的に短く開く。底部ヘラ切り+回転ヘラ削り。付け高台。	輪軸撫で調整。	胎: 微砂粒を含む 焼: 良好 色: (外)2.5Y5/1 黄灰色 (内)2.5Y5/1 黄灰色	床着

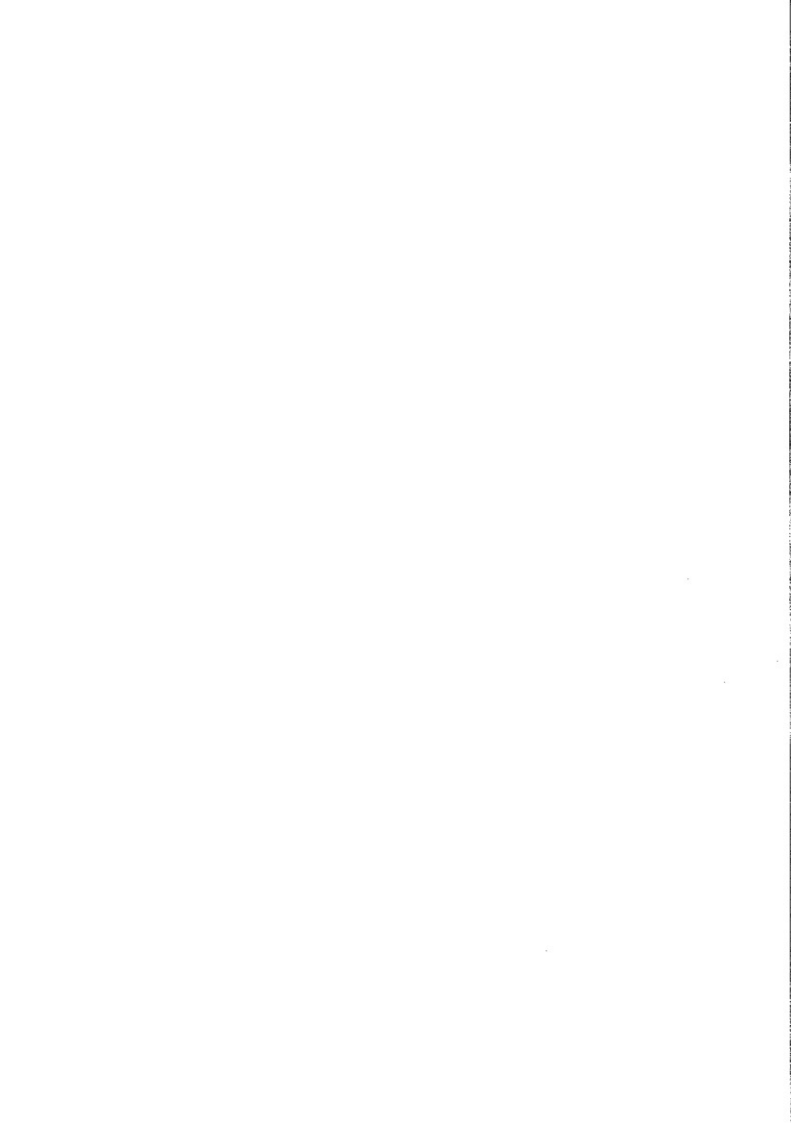
第15表 出土遺物観察表(9)

挿図番号	器種	法量・残存率	成形・器形	調整・施文	器質	備考
38-1	土師 坏	口径 13.0 残高 4.4 残存 1/8	体内内彎する。	外面横立へラ削り。内 面横立へラ磨き。	胎：微砂粒を含む 焼：良好 色：(外)5YR7/6 橙色 (内)5YR7/6 橙色	
38-2	土師 甕	口径 (19.4) 残高 4.6 残存 1/4	口縁部緩く外反す る。	口縁部横立撫で調整。 外面縦位刷毛調整。内 面横位刷毛調整+撫で 調整。	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)7.5YR5/2 灰褐色 (内)7.5YR5/2 灰褐色	
38-3	須恵 甕	残高 10.9 残存 1/4	口縁部外反する。	横立へラ削り+横立撫 で調整。2条の波状文 を巡らす。	胎：微・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)5Y5/1 灰色 (内)5Y5/1 灰色	38-4 と同一 個体?
38-4	須恵 甕	残高 15.8		外面平行叩き目底。内 面同心円文+撫で調 整。	胎：微・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)5Y4/1 灰色 (内)5Y5/1 灰色	38-3 と同一 個体?
39-1	縄文 深鉢	残高 6.7 底径 (13.4) 残存 1/3	底面網代瓦。		胎：微・粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外)5YR5/6 明赤褐色 (内)5YR5/6 明赤褐色	S64 W1

引用・参考文献

- 川上 元『上田市上平遺跡緊急発掘調査報告』上田市教育委員会 1968
- 小林幹男『上田市の原始・古代文化』上田市教育委員会 1977.3
- 川上 元ほか『築屋台条里水田跡遺跡・金井裏遺跡・殿田遺跡』上田市教育委員会 1986.3
- 川上 元ほか『豊原古墳』上田市教育委員会 1988.3
- 中沢徳士『八幡裏遺跡Ⅰ』上田市教育委員会ほか 1995.3
- 久保田敦子『八幡裏遺跡Ⅱ』上田市教育委員会ほか 1997.3
- 西沢和浩『金井裏遺跡Ⅱ』上田市教育委員会ほか 1997.3
- 塩崎幸夫『上田城跡』上田市教育委員会 1997.3
- 中沢徳士『八幡裏遺跡Ⅲ』上田市教育委員会ほか 1998.3
- 小笠原正『宮原遺跡』上田市教育委員会ほか 1998.3
- 上田市教育委員会『上田市文化財分布図』1996.9
- 長野県地名研究所『上田市字境図』上田市教育委員会 1997.11
- 柳沢亮ほか『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書2』(財)長野県埋蔵文化財センターほか 1998.3
- 五十嵐幹雄「獣骨を出した長野県上田市北上田遺跡」『信濃』第9巻第11号 1958.11
- 川上 元「上田市唐臼出土の瓦塔」『上小考古』5 1973.12
- 塩入秀敏「上田市雁堀出土の有段口縁壺形土器」『長野県考古学会誌』31 1978.3
- 林 和男「国立東信病院敷地内(思川遺跡)出土の土師器」『上小考古』14 1983.7
- 長野県教育委員会『長野県の中世城館跡』1983.3
- 上田小県誌刊行会『上田小県誌』第6巻歴史篇上(一)考古 1995.3
- 上田市立博物館『郷土の地誌 上田盆地』1979.3
- 上田市立博物館『郷土の歴史 上田城』1988.3
- 上田市立博物館『郷土の歴史 発掘された原始・古代』1992.3

写 真 图 版





八幡裏遺跡群航空写真（昭和45年撮影）



八幡臺遺跡群Ⅳ全体写真(北より)



八幡臺遺跡群Ⅳ全体写真(直上より)



第1号住居址(北東より)



第1号住居址編物石出土状況(北西より)



第4号住居址(西より)



第5号住居址(南より)



第5号住居址遺物出土状況(南より)



第7号住居址(南東より)



第8号住居址(南西より)



第8号住居址竈(南西より)



第8号住居址遺物出土状況(南西より)



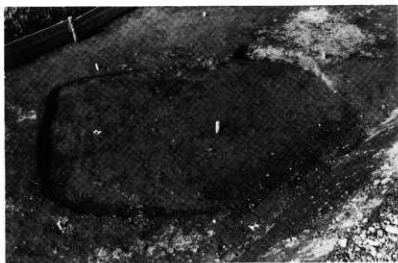
第10号住居址(南東より)



第10号住居址竈(南東より)



第10号住居址遺物出土状況(南東より)



第11号住居址(南東より)



第12号住居址(南より)



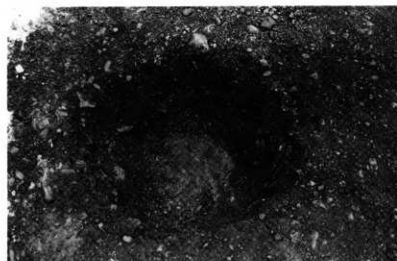
調査風景(南より)



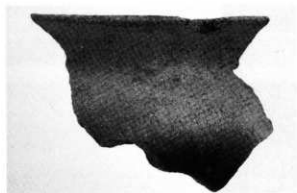
第1号土坑(南より)



第2号土坑(南より)



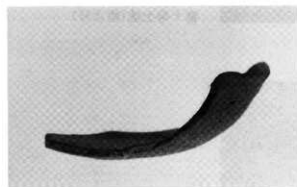
第3号土坑(南より)



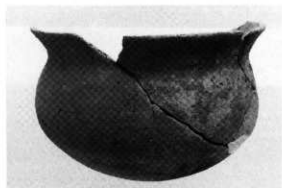
22-1



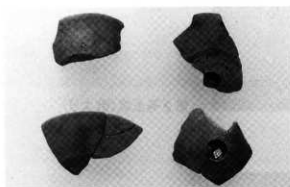
22-2・3



22-4



22-5



22-6~9



纏物石



23-1

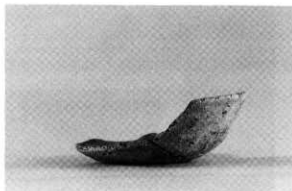


23-2

第1号住居址出土遺物・第2号住居址出土遺物



24-3



24-4



24-5



24-6



24-7



24-8

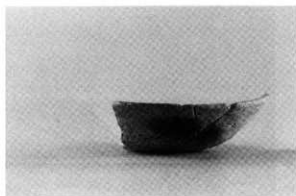


24-9

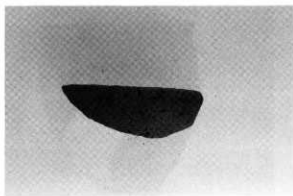


24-10

第2号住居址出土遺物



24-11



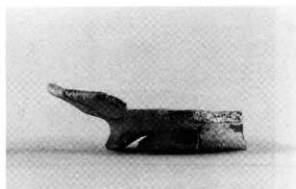
25-12



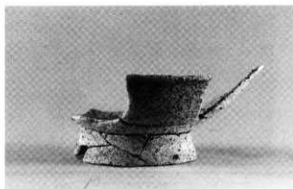
25-13



25-14



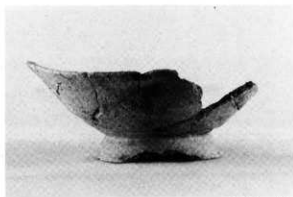
25-15



25-16



25-17



25-18

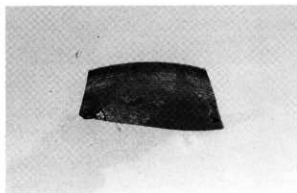
第2号住居址出土遺物



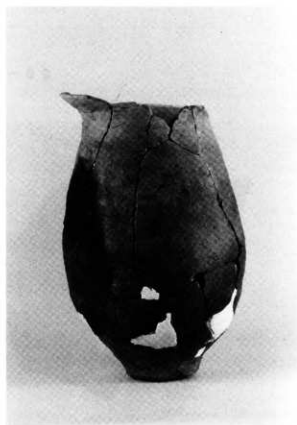
25-19



25-20



25-21



26-2



26-1



26-3

第2号住居址出土遺物・第5号住居址出土遺物



26-4



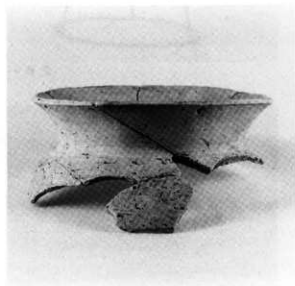
26-5



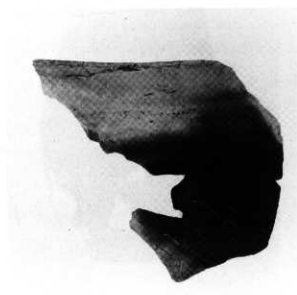
26-6



26-7

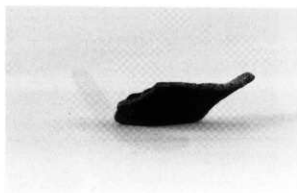


27-8



27-9

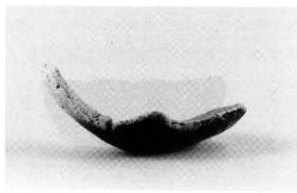
第5号住居址出土遺物



27-10



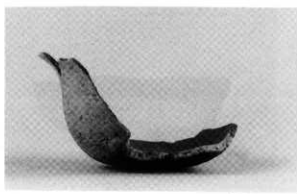
27-11



27-12



27-13



27-14



28-15



28-16



28-17

第5号住居址出土遺物



28-18



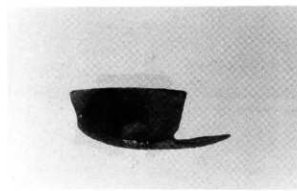
28-19



28-20



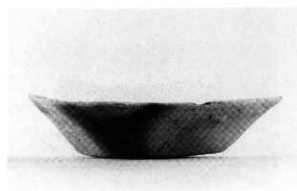
28-21



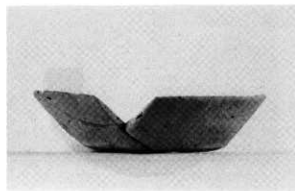
28-22



28-23

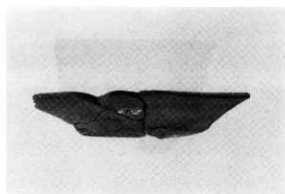


28-24

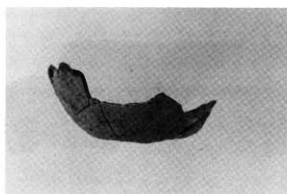


28-25

第5号住居址出土遺物



28-26



28-27



28-28



28-29

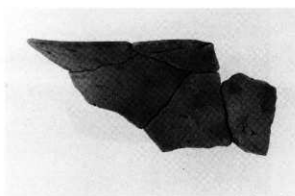


29-1

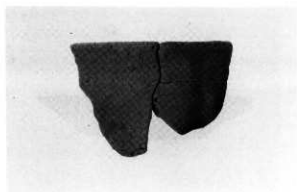


29-2

第5号住居址出土遺物・第7号住居址出土遺物



29-3



29-4



29-5



29-6



29-7



29-5~7

第7号住居址出土遺物



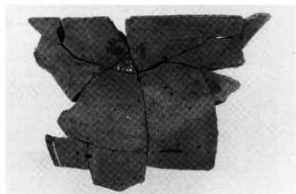
30-1



30-2



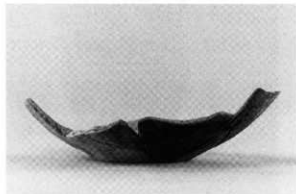
30-3



30-4



30-5



30-6

第8号住居址出土遺物



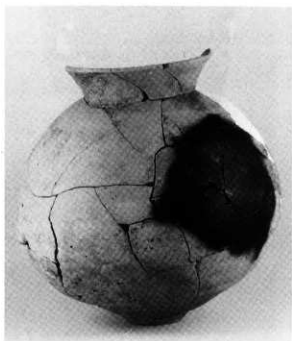
30-7



30-8



30-9



31-10



31-11

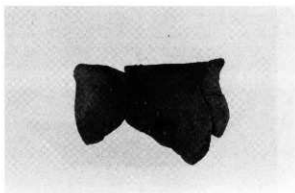


32-12

第8号住居址出土遺物



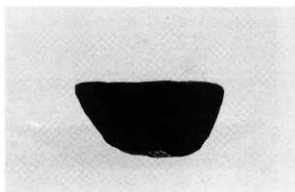
3 2 - 13



3 2 - 14



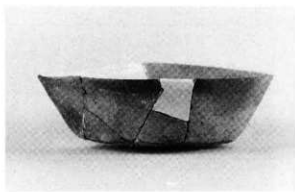
3 2 - 15



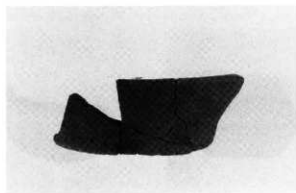
3 2 - 16



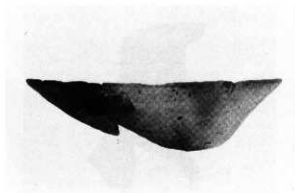
3 2 - 17



3 2 - 18

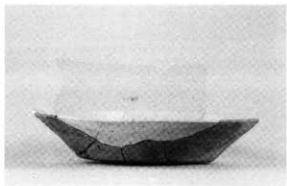


3 2 - 19

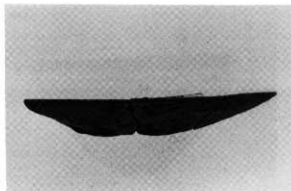


3 2 - 20

第8号住居址出土遺物



3 2 - 21



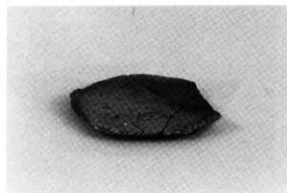
3 2 - 22



3 2 - 23



3 2 - 24



3 3 - 25



3 3 - 26



3 3 - 27



3 3 - 28



3 3 - 29

第8号住居址出土遺物



34-1



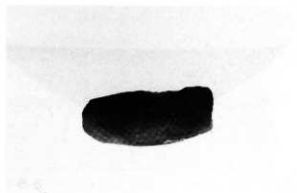
34-2



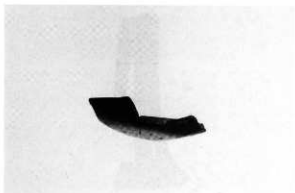
35-3



35-4



35-5



35-6

第10号住居址出土遺物



35-7



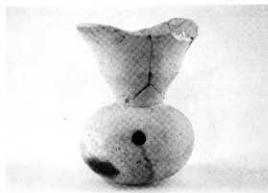
35-8



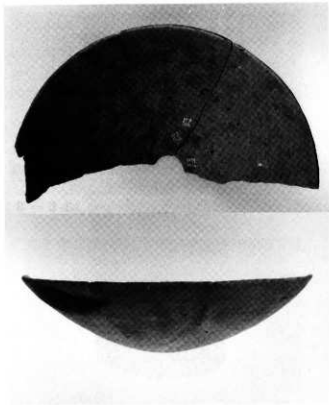
35-9



35-10



35-11

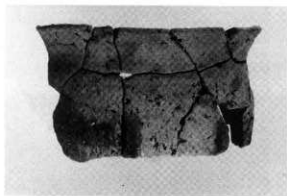


35-13



35-12

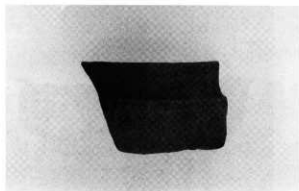
第10号住居址出土遺物



36-1



36-2



36-3



36-4



36-5



37-1

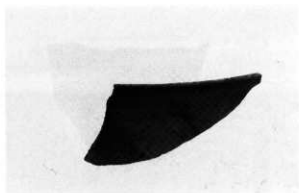


37-2

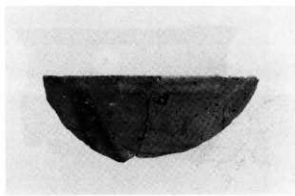


37-3

第11号住居址出土遺物・第12号住居址出土遺物



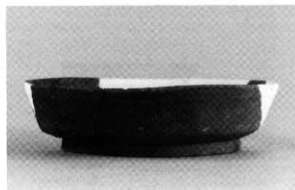
37-4



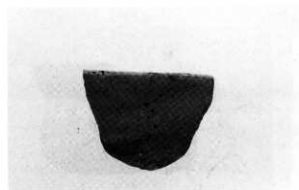
37-5



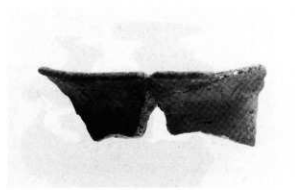
37-6



37-7



38-1



38-2



38-3



38-4

第12号住居址出土遺物



39-1 (S64W1)



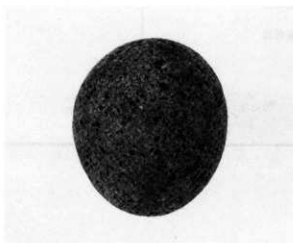
縄文土器



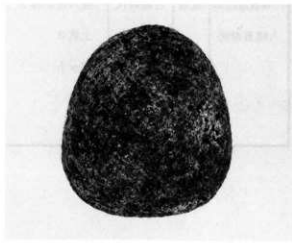
縄文土器



石鏃



磨石



磨石

遺構外出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	はちまんうらいせき 4						
書 名	八幡裏遺跡IV						
副 書 名	市道緑が丘1-3・1-4号線道路改良工事に伴う八幡裏遺跡群第4次発掘調査報告書						
シリーズ名	上田市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第74集						
編著者名	塩崎幸夫						
編集機関	上田市教育委員会						
所 在 地	〒386-0025 長野県上田市天神二丁目4番74号 Tel.0268-22-4100						
発行年月日	西暦1999年3月25日						
所収遺跡名	所 在 地	市町村コード	北緯° ' "	東経° ' "	調 査 期 間	調査面積	調 査 原 因
八幡裏遺跡群 八幡裏遺跡	上田市大字上田 字八幡裏・字思川	20203	36° 24' 6"	138° 15' 3"	平成8年12月2日～ 平成9年1月28日	600㎡	市道緑が丘1-3・ 1-4号線道路改良 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項		
八幡裏遺跡群 八幡裏遺跡	集落	古墳時代 奈良時代 平安時代	竪穴住居跡 9 土坑 3 ピット	土師器 須恵器			

上田市文化財調査報告書第74集

八幡裏遺跡Ⅳ

市道緑が丘1-3・1-4号線道路改良工事に伴う
八幡裏遺跡群第4次発掘調査報告書

発行日 平成11年3月25日
発行 上田市教育委員会
長野県上田市天神二丁目4番74号
TEL. 0268-22-4100
印刷 田口印刷株式会社
